

西部第一落合遺跡群（5）

前橋都市計画事業西部第一落合土地地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 2 3

前 橋 市 教 育 委 員 会

西部第一落合遺跡群（5）

前橋都市計画事業西部第一落合土地地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 2 3

前 橋 市 教 育 委 員 会



1区全景（西から）



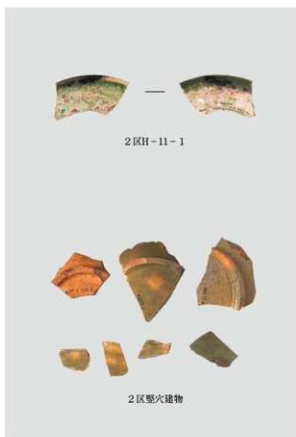
2区全景（北から）



2区全景（上が北）



1区大溝西側部分火山灰検出状況（北東から）



西部第一落合遺跡群（5）出土緑釉陶器

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武將の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東七名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する西部第一落合遺跡群（5）は古代上野国の中枢地域の調査であり、上野国府推定域にも近接することから、調査成果に多くの注目を集めております。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の確認はかないままですが、1区では古墳時代の大溝と水田・畠跡が見つかり、2区では6世紀から11世紀代の集落跡が見つかりました。こうした調査成果の積み上げが国府や国府のまちの姿の再現に繋がると考えております。残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申し上げます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和5年11月

前橋市教育委員会
教育長 吉川 真由美

例 言

- 1 本報告書は前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に伴う「西部第一落合遺跡群（5）」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査および整理作業の体制は以下の通りである。

遺跡名	西部第一落合遺跡群（5）（包蔵地名：前橋市0134遺跡）
遺跡コード	4 A 277
遺跡所在地	群馬県前橋市元総社町748-1、748-3、748-4、748-5、2510-2、2516-1、2519-1、2520、2697-11の各一部
監理指導	藤井賢一郎（前橋市教育委員会、令和5年2月～3月） 阿久澤友之（前橋市教育委員会、令和5年4月～11月）
調査担当	佐野良平（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	令和5年2月20日～令和5年5月8日
整理・報告書作成期間	令和5年5月9日～令和5年11月24日
発掘調査・整理作業参加者	

岡野 茂 松村春樹 茂木佑輔 大川明子（技研コンサル株式会社）

新井 實 上沢公一 宇賀神光 大滝大助 岡本陽一 金子拓生 菊田武明 小飼淳一 櫻井未来

澤崎春希 関根 勝 土屋和美 角田拓弥 富岡信行 中嶋憲治 永吉広岳 羽島真臣 早川枝里奈

古澤昌夫 細野竹美 矢鳥正志 山岸明日香 山口拓郎 山田 進 吉浦英和

- 3 本書の編集は佐野が行い、原稿執筆についてはIを阿久澤、その他を佐野が担当した。
- 4 本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会で保管されている。
- 5 下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

山下工業株式会社

凡 例

- 1 挿図中に使用した北は座標北であり、座標については日本測地系に基づく平面直角座標第Ⅹ系を使用した。
- 2 挿図に国土地理院発行1/25,000「前橋」、前橋市発行1/2,500都市計画図を使用した。
- 3 遺構名称は、竪穴建物跡：H、溝：W、井戸：I、土坑：D、ピット：Pである。
- 4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。
遺構 竪穴建物跡、井戸、水田跡、畝跡、土坑、ピット…1/30、1/60 溝…1/60、1/100 全体図…1/200
遺物 土器…1/3、1/4 瓦…1/6 金属製品…1/2
- 5 本文および表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。
- 6 遺構図・遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。その他各図トーンを参照されたい。

遺構図 焼土：■ 炭化物：■ 灰：■ 硬化面：■ ●：No遺物

遺物実測図 須石器（断面）：■ 灰軸陶器（断面）：■

目 次

はじめに	
例言・凡例	
I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	1
III 調査方針と経過	4
IV 基本土層	4
V 遺構と遺物	5
VI まとめ	42

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋市長 山本 龍（区画整理課）（以下「前橋市」という。）が施行する前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に伴い実施され、5年目にあたる。本事業地周辺は、上野国府推定域が近接すること、北側では元総社蒼海土地区画整理事業に伴い、20年以上に亘り発掘調査が実施され、数多くの貴重な調査成果を得ていることなどから、濃密な遺跡地として認識されている。

令和4年11月25日付けで前橋市より、埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼書が前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。これを受け、市教委で同年12月13日・14日に試掘確認調査を実施した結果、遺構が検出されたため、埋蔵文化財の取扱いについて前橋市と市教委で協議を行った。工事計画から遺構の現状保存は困難であるため、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意に至った。

令和5年1月5日付けで前橋市より、埋蔵文化財発掘調査業務に係る依頼が市教委に提出された。市教委では既に他の発掘調査を実施中のため、市教委直営による調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意した。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。令和5年2月14日付けで前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「西部第一落合遺跡群（5）」（遺跡コード：4A277）の「西部第一落合」は土地区画整理事業名を採用し、「（5）」は当該土地区画整理事業において5番目に実施した発掘調査として付したものである。

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

本遺跡が所在する前橋市元総社町は前橋市街地中心から南西約4kmに位置し、市街地西端部にあたる。周辺は市街地化が進んでいるが現在も畑地が多く見られる場所である。遺跡南東約200mには国道17号線高崎前橋バイパス、北側約200mには県道10号線前橋安中富岡線、西側約1kmには関越自動車道が南北に走っている。本遺跡の東西には相馬ヶ原扇状地を源とする牛池川と栄谷川が流れ、両河川に挟まれた地域に立地する。落合地区は榛名山南東に広がる相馬ヶ原扇状地から前橋台地といった平野部へと移行する地帯である。

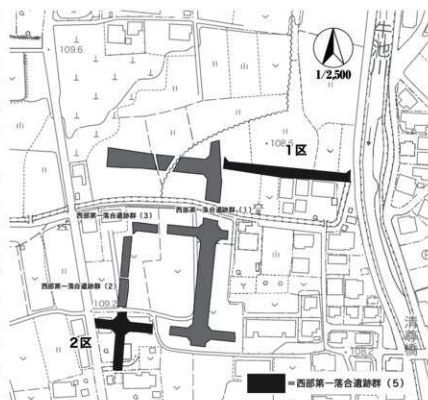


Fig.1 調査区位置図

2 歴史的環境

前橋市の南西部に立地する本遺跡周辺地域は、上野国府推定地や上野国分寺・国分尼寺を中心に連綿と遺跡が広がる地域である。関越自動車道建設や元総社蒼海土地区画整理事業などに伴う発掘調査が行われ、多くの遺構・遺物が確認されている。本遺跡周辺地域での時代毎の遺跡の概要は以下の通りである。

縄文時代の遺跡では八幡川右岸の微高地上に産業道路東遺跡・産業道路西遺跡、染谷川左岸自然堤防上に上野国分僧寺・尼寺中間地域・元総社小見Ⅲ遺跡・元総社蒼海遺跡群（24）、牛池川左岸自然堤防上に元総社蒼海遺跡群（7）・（9）・（10）などが挙げられ、各遺跡で堅穴住居跡が確認されている。

弥生時代に入ると当該期の遺跡は上野国分僧寺尼寺中間地域・正観寺遺跡などがあるが、その分布は散在的である。元総社寺田遺跡Ⅲでは牛池川自然堤防上で後期の住居群が確認されている。

古墳時代になると利根川右岸の地域は県内でも有数の古墳密集地域となる。代表するものとして総社古墳群が挙げられ、古墳時代後期・終末期に亘り首長墓が多数築造される。この時期には山王塚寺が建立され、総社古墳群を含め、政治の中枢地域となる。この時代の集落は牛池川・染谷川沿いの自然堤防上に展開しているが、前期～中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。

奈良時代には上野国府が造営され、上野国分寺・国分尼寺の建立に示されるように、本遺跡周辺は古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

本遺跡周辺では高崎市浜川町周辺からN-64°-E方向へ東山道（国府ルート）が延びると推定されている。前橋市域では平成28年度上野国府等範囲内容確認調査45 a・bトレンチにおいて2時期の両側側溝を持つ道路跡を確認している。鳥羽遺跡でも2条の道路跡が確認されている。日高遺跡では幅約4.5mの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。西部第一落合遺跡群（1）では推定東山道の駅路と考えられていた低地部から上幅18m、深さ1.8～2.4mの大型の溝が確認された。溝底面の出土遺物や覆土中にAs-Bが確認できることから古代の溝と想定されている。



Fig. 2 周辺遺跡図 (S=1/25,000)

Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	西部第一落合遺跡群（5）	10	産業道路東遺跡	25	天竺遺跡・Ⅱ遺跡
2	上野国分寺跡	11	産業道路西遺跡	26	天竺Ⅱ遺跡
3	上野国分尼寺跡	12	稲荷保道東遺跡	27	関泉遺跡
4	山王塚寺跡	13	元総社中学校遺跡	28	関泉跡南遺跡
5	推定東山道国府ルート	14	元総社北小学校遺跡	29	稲敷遺跡・Ⅱ遺跡
6	藤定日高道	15	元総社北川遺跡	30	藤城遺跡
7	稲荷山古墳	16	元総社牛池川遺跡	31	藤城Ⅱ遺跡
	元総社蒼海遺跡群	17	上野国分僧寺・尼寺中間地域	32	大友野敷Ⅱ・Ⅲ遺跡
	元総社小見遺跡・Ⅱ～Ⅳ遺跡	18	元総社西川遺跡	33	元総社明神遺跡Ⅰ～Ⅲ
	元総社小見Ⅲ遺跡・Ⅱ～Ⅳ遺跡	19	上野国分寺寺田遺跡	34	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ
8	元総社倉作遺跡・Ⅴ遺跡	20	堀田村倉遺跡	35	寺田遺跡
	元総社稲荷坂大塚西遺跡・Ⅱ～Ⅳ遺跡	21	鳥羽遺跡	36	元総社小学校校庭遺跡
	元総社稲荷坂北遺跡・Ⅱ～Ⅴ遺跡	22	鳥羽遺跡・Ⅱ遺跡	37	元総社落合遺跡
	元総社宅地遺跡	23	元総社鳥羽遺跡	38	中塚遺跡
9	呂栄寺跡南遺跡・Ⅱ遺跡	24	元総社早乙女遺跡	39	西部第一落合遺跡群

当該期の一般的な集落は、牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府域と居住域の区分けが看取できる。

室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡が多く検出されている。天正年間以降は諏訪・秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、慶長六年（1601）に秋元長朝が総社城に移ると同時に蒼海城は廃城となった。



Fig.3 グリッド設定図

Tab. 2 西部第一落合遺跡群周辺遺跡一覧表

遺跡名	調査年度	時代:主な遺構・遺物
大塚遺跡	1996	奈良・平安 住居跡、井戸、土坑 ○白磁・青磁・灰陶器
大塚西遺跡	1989	奈良・平安 住居跡、井戸、土坑 ○土師器・磁器器・石部
元総社寺田遺跡Ⅱ	1996	縄文 土坑 弥生 住居跡 古墳 住居跡、水田、倉 奈良 奈良・平安 住居跡、井戸、土坑、溝、河道路 中世 青磁城外瓶、青磁器・土坑、石段、瓦 ○彰形木製品・書生土器（陶器・瓦・割物） 鎌倉 土師土器、瀬川村土器、緑釉陶器、灰釉陶器、白磁・磁（内附・菓子・私用）・人形、削刀（瓦・刀形・穿針形）・金・銀・漆器・漆器、軟質陶器、香籠、石燈・人骨・灰骨
大塚東遺跡	2008	奈良・平安 住居跡、居住建物跡、道路状遺構 中世以降 堀 溝 ○灰釉陶・緑釉陶器・大型内面鉢・磁器器
上野国府等範囲内宮内線遺跡ホトレンチ 23	2013	平安 住居跡、溝、土坑、ビット ○灰色土器片白陶、灰釉陶器、軟質土器
上野国府等範囲内宮内線遺跡ホトレンチ 24	2013	中世 溝、土坑 遊藝施設 溝（戸埋堀の一端） ○土師器・磁器器・軟質陶器・宮内器・磁器
上野国府等範囲内宮内線遺跡ホトレンチ 25	2013	平安 溝 中世 土坑、ビット、溝 瓦片 ○書生土器（瓦・木） 瀬川土器（瓦器類） 灰釉陶器、軟質
上野国府等範囲内宮内線遺跡ホトレンチ 26	2013	平安 住居跡、溝、中世 遊藝施設遺構 ○境土師・灰釉陶器、瀬川村土器、瓦
元総社倉庫遺跡	2014	奈良・平安 住居跡、土坑 ○障土土器 障土内丸 土師器 磁器器
上野国府等範囲内宮内線遺跡ホトレンチ 40	2016	古墳 住居跡（4世紀代） 奈良・平安 住居跡、溝、土坑、ビット 中世 溝、土坑、ビット割（築立建物跡） ○白滑・灰釉陶器・緑釉陶器・磁器器（障土平定瓦）
上野国府等範囲内宮内線遺跡ホトレンチ 52	2018	中世 溝、ビット 野鳥平塚 道路状遺構 ○灰釉陶器 障土土器 青磁 磨石
上野国府等範囲内宮内線遺跡ホトレンチ 53	2018	中世 築石付住居跡
西部第一落合遺跡群（1）	2020	古墳 鳥居 平安 聖穴建物跡、溝、井戸、土坑 中世 赤土城外瓶 ○瓦（割物「大瓦」） 灰釉陶器・緑釉陶器・瓦製品・瓦製品（刀鏡等） 陶磁器・石部・石部
西部第一落合遺跡群（2）	2021	古墳 古墳 飛鳥～平安 聖穴建物跡、土坑 中世 井戸、土坑、ビット ○緑釉陶器・灰釉陶器
西部第一落合遺跡群（3）	2021	平安 溝、井戸、土坑、探検坑 中世 溝、堀、築立建物跡、井戸、土坑、ビット 遊藝施設・古墳、道路状遺構
西部第一落合遺跡群（4）	2021	古墳 溝 奈良・平安 聖穴建物跡、墓塚、土坑 中世 井戸 ○障瓦、丸形、緑釉陶器、灰釉陶器
西部第一落合遺跡群（5）	2023	中世 聖穴建物跡、水田、瓦、溝 平安 聖穴建物跡、溝、土坑 中世 井戸、ビット ○灰釉陶器・緑釉陶器・書生土器・瓦（割物「大瓦」）・丸形・（鏡製品）

Ⅲ 調査方針と経過

委託調査箇所は前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業地内であり、調査面積は694㎡である。グリッド座標については近隣調査との整合性や以後の拡張性を考慮して元総社若海遺跡群の調査で使用されている任意グリッド座標（国家座標（日本測地系第Ⅸ系） $X = 44,000,000$ 、 $Y = -72,200,000$ を基点とする4mピッチのもの）を使用した。なお経線をX、緯線をYとして北西隅を基点に番付して呼称とした。公共座標は次のとおりである。

測点	日本測地系（第Ⅸ系）	世界測地系（第Ⅸ系 測地成果2011）
1区 X 308、Y 391	$X = 42,436,000$ m、 $Y = -70,968,000$ m	$X = 42,790,9246$ m、 $Y = -71,259,7781$ m
2区 X 279、Y 417	$X = 42,332,000$ m、 $Y = -71,080,000$ m	$X = 42,686,9282$ m、 $Y = -71,371,7780$ m

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.25㎡バックホー）にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものはNo遺物とし、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行なった。記録写真は35mm判モノクロ・リバーサルフィルムと、デジタルカメラの3種類を用いて撮影を実施した。調査区全景についてはドローンを用い撮影を実施した。

調査経過については以下の通りである。

	1区	2区
表土掘削	令和5年3月27日～令和5年3月29日	令和5年2月20日～令和5年2月22日
遺構調査	令和5年4月3日～令和5年4月18日	令和5年2月24日～令和5年3月31日
調査区全景撮影	令和5年4月10日	令和5年3月30日
発掘調査完了検査	令和5年4月17日	
埋め戻し作業	令和5年5月1日～令和5年5月2日	令和5年4月27日～令和5年4月28日

Ⅳ 基本土層

基本土層は1区では調査区東側、2区は調査区北西側と南側に観察を行った（Fig. 5・12）。

I層土は現代の表土層、II層土は暗褐色のAs-B軽石混土層である。1・2区ともにIII層土を遺構確認面としている。2区III層土は暗褐色土に焼土粒・炭化物を主に含み、土器片も混入する包含層である。1区IV層土は5世紀末から6世紀初頭の標名山噴火を起因とする火山灰（Hr-FA）層である。一部で最初に降下した小豆色細粒火山灰層（Hr-FA/S1）が確認できる。1区大溝の覆土ではHr-FA層の上に土壌化した土層があり、その上位に6世紀中頃の標名山噴火を起因とする火山灰（Hr-FP）の堆積層（層厚1cm以下）が確認できる（巻頭図版2）。1区V層土はAs-Cを含む黒色土、いわゆる「C黒」と呼ばれる土層である。



Fig.4 基本土層

V 遺構と遺物

1 1区

遺構確認面を2面設定し調査を行った。基本土層Ⅲ層・As-B軽石下面を第1面、Hr-FA下面を第2面とした。第1面は調査区の西から東へ緩やかに下がる地形であった。第2面ではW-8より東側が一段下がった低地となりHr-FA下水田が広がる。W-8からW-1の台地部はほぼ平坦、W-1から調査区西端の間は上幅約16mの大溝が南北方向に走行している。各面において検出された特徴的な遺構について記す。

(1) Hr-FA下水田 (Fig.9、PL.2)

確認面 第2面 位置 X312～317、Y391・392 **被覆層と水田の残存状況** 5世紀末から6世紀初頭の榛名山噴火を起因とする火山灰(Hr-FA)に直接覆われている。場所によってはフォールユニットも確認できる。牛池川に近い調査区東側で確認された。層厚は東端部で1.5cm、西端部で0.8cmとなっている。水田域の地形 台地部縁辺から東へ向かって緩やかに傾斜している。西端と東端での標高差は0.10m **畦畔の区画** 東端で確認された水田区画から南北方向に長軸をもつ長方形の区画と想定される。耕作土 As-C軽石を少量含む黒褐色土(V層)を耕作土とする。取配水の方向 水口は検出されていないが、水田区画の西端部に位置する水田と同時期のW-8や水田面の傾斜等から推定すると、西方向から水を取り入れ東方向へ配水していたと考えられる。足跡 水田面は比較的平坦であったが足跡と考えられる凸凹は検出されなかった。出土遺物 土師器甕の小片1点のみ出土。

(2) Hr-FA下畠跡 (Fig.10、PL.2・3)

確認面 第2面 位置 X301～303、Y390・391 **溝軸方向** N-68°-E **規模** 大溝へ向かって傾斜する斜面において並列する溝を6条確認。畠跡と判断した。畝立ての溝と考えられる溝は長軸(4.09)m、短軸0.38～0.49m、深さ0.08～0.10mを測る。時期 溝の覆土にHr-FAが堆積していることからHr-FA降下(5世紀末から6世紀初頭)以前の畠跡と想定される。備考 大溝西側の平坦地(西部第一落合遺跡群(1)1区)で本遺構と同様のHr-FAに覆われた畠跡が確認されている。

(3) 大溝 (Fig.11、PL.3)

確認面 第2面 位置 X297～301、Y390・391 **主軸方向** N-2°-E **規模** トレンチでの確認調査を行った。湧水が激しく安全面を考慮して溝底部までの調査・確認には至っていない。最大上幅(16.53)m、確認下幅11.43m、確認深度2.68m **覆土** 砂質土、細粒砂、シルトが互層状に堆積している状況から複数回の流水があったことが窺える。覆土下位にはHr-FAとHr-FPの堆積層が確認できる。出土遺物 上層からは土師器・須恵器の坏・甕が少量、下層からは古墳時代頃の土師器の坏・甕が少量出土している。時期 大溝東斜面に畠が営まれていること、斜面部にHr-FAの堆積が確認できること、この2点からHr-FA降下前の5世紀末以前から大溝が存在していたことが想定される。6世紀以降、大溝は流入した土砂の堆積により徐々に埋没していく。その後、埋没土上に溝・土坑などが作られていることから、8世紀頃までには完全に埋没したと考えられる。

(4) 溝・土坑・ピット (Fig.6・7・10・23、Tab.3・5、PL.1・2・10)

計測値については「Tab.3 1区溝・土坑・ピット計測表」を参照のこと。W-2は覆土・形状等から西部第一落合遺跡群(1)W-2(東へ分岐する溝)と同一遺構と考えられる。W-3とW-4に挟まれた箇所は他と比較して若干窪んでおり、As-B軽石の堆積が顕著であった。当初はW-3・4を側溝とした道路状遺構でないか考えたが、面は平坦ではあるが硬化面が見られず決め手に欠けていた。その後第2面においてW-8が検出されたことから、この影響を受けて窪んだ地形であったと判断した。第1・2面で共に確認されたW-1は第2面のW-1が完全に埋没する前にAs-B軽石が降下・堆積したことから第1面で確認できた。第1面で確認されたW-1は埋没途中の状態である。

第1面

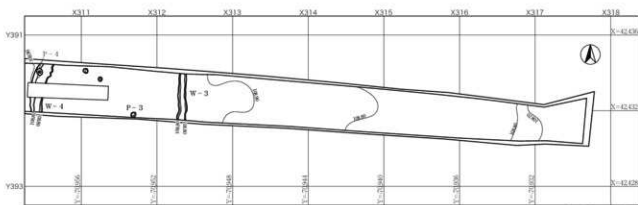
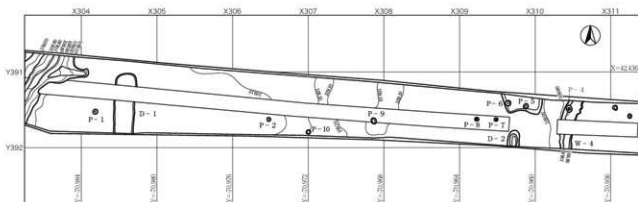
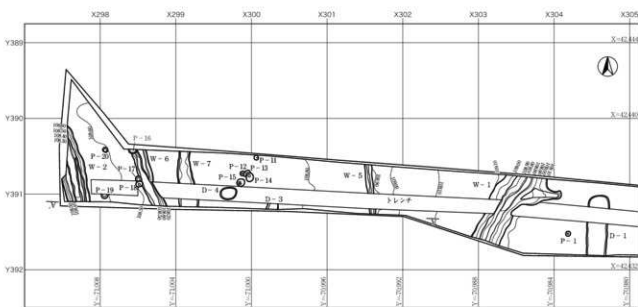
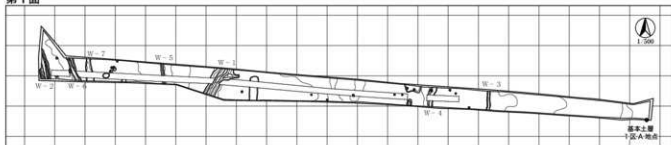
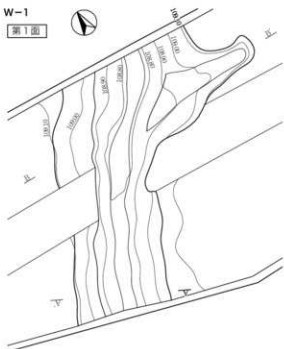


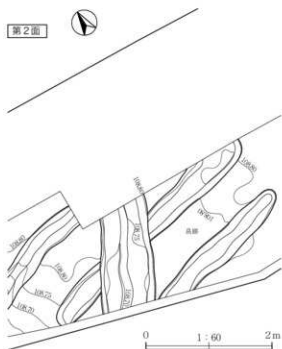
Fig.5 1区第1面全体図

W-1

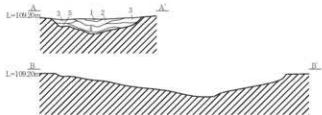
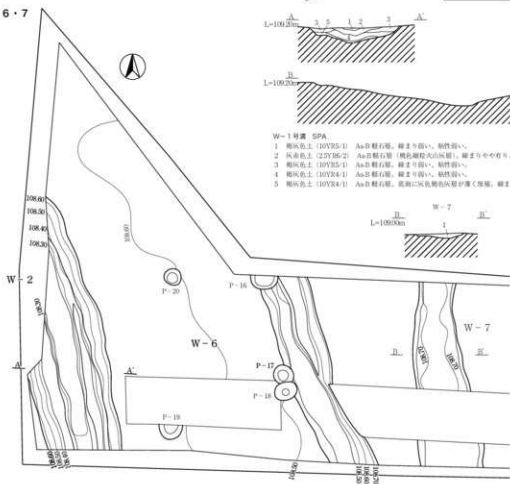
第1面



第2面

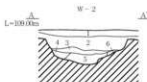
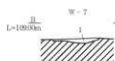


W-2·6·7



W-1号溝 SPA

- 1 暗灰色土 (10YR5/1) Aa粒石層。締まり弱い、粘性弱い。
- 2 灰黄色土 (2.5Y 7/6-2) Aa粒石層 (褐色腐植土山吹層)。締まり中有り、粘性中有り。
- 3 暗灰色土 (10YR5/1) Aa粒石層。締まり弱い、粘性弱い。
- 4 暗灰色土 (10YR4/1) Aa粒石層。締まり弱い、粘性弱い。
- 5 暗灰色土 (10YR4/1) Aa粒石層。底層に灰黄褐色灰砂層 (砂層)。締まり弱い、粘性弱い。



W-2号溝 SPA

- 1 暗灰色土 (10YR3/4) 砂質土。白色粒石多量。小礫少量含む。締まり有り、粘性中有り。
- 2 暗灰色土 (10YR3/3) 砂質土。小礫少量含む。締まり有り、粘性中有り。
- 3 暗灰色土 (10YR3/4) 砂質土。小礫少量含む。締まり有り、粘性中有り。
- 4 暗灰色土 (10YR2/4) 砂質土。灰白色小礫少量含む。締まり有り、粘性中有り。
- 5 暗灰色土 (10YR2/4) 砂質土。灰白色小礫少量含む。締まり有り、粘性中有り。
- 6 暗灰色土 (10YR2/4) 砂質土。灰白色小礫少量含む。締まり有り、粘性中有り。

W-7号溝 SPB

- 1 暗灰色土 (10YR3/3) Aa粒石層。締まり有り、粘性中有り。

Fig 6 1区W-1・2・6・7号溝

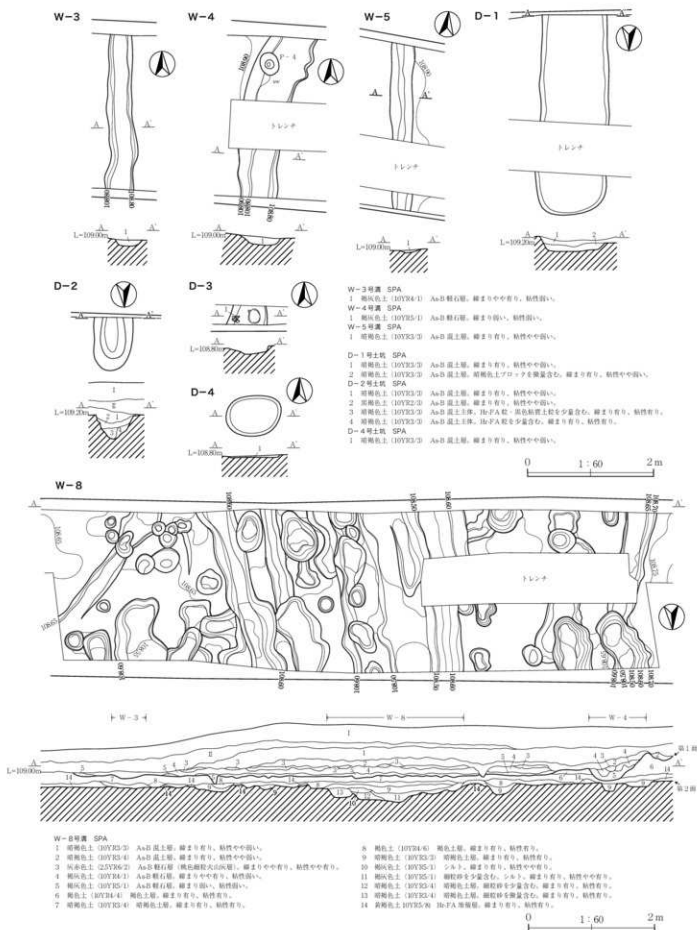


Fig.7 1区 W-3~5・8号溝、土坑

第2面

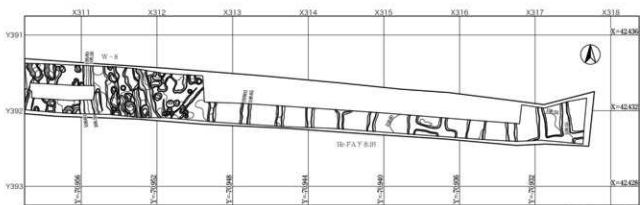
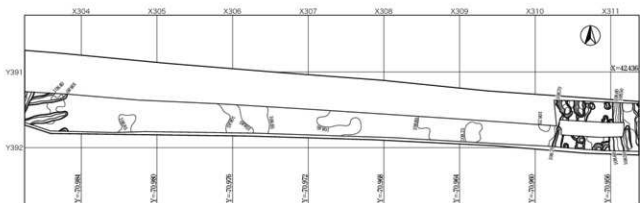
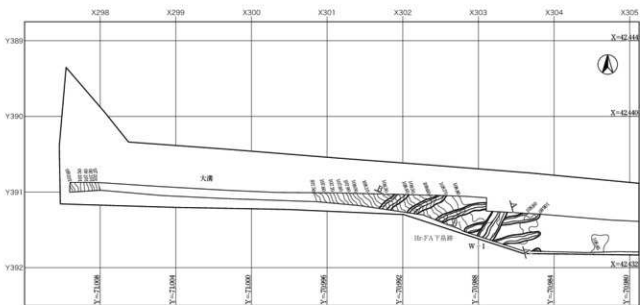
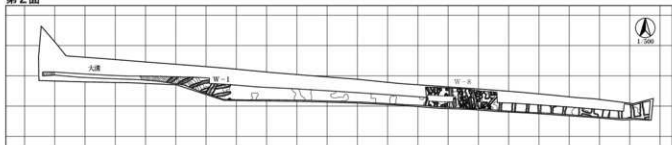
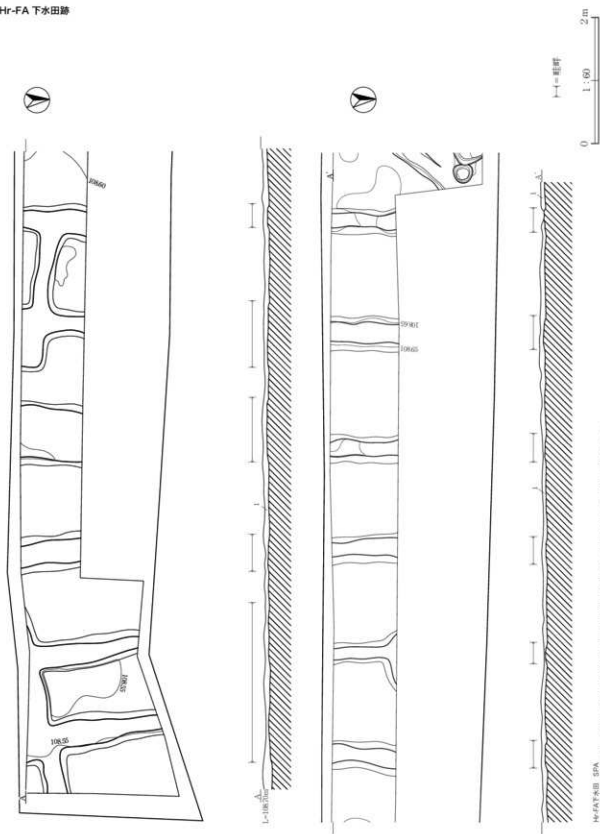


Fig.8 1区第2面全体图



1 排水路跡 2 溝跡
Hr-FA、排水路跡下段で小石を敷き詰められた溝跡である。幅は1.50m、深さは0.50m。
Hr-FA、排水路跡上段で小石を敷き詰められた溝跡である。幅は1.00m、深さは0.50m。

Fig.9 1区 Hr-FA 下水田

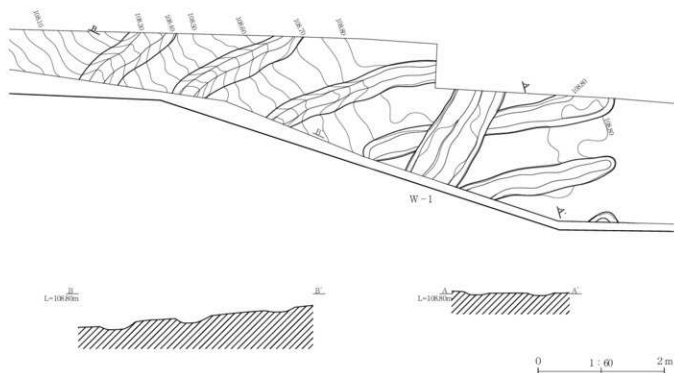


Fig.10 1区Hr-FA下島跡

Tab. 3 1区溝・土坑・ピット計測表

溝	遺構名	確認面	グリッド	主軸方向	幅(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(m)	断面形状	備考
W-1	第1・2面	X302・303, Y300・301	N-34°-E	3.91	1.38	0.26	0.35		弧状	
W-2	第1面	X287, Y300・301	N-12°-W	2.82	1.29	0.31	0.38		逆台形	
W-3	第1面	X312, Y301・302	N-1°-E	2.44	0.45	0.23	0.13		逆台形	
W-4	第1面	X310, Y301・302	N-13°-W	2.60	0.74	0.49	0.13		逆台形	
W-5	第1面	X301, Y300・301	N-6°-W	2.61	0.36	0.08	0.07		浅い弧状	
W-6	第1面	X298, Y300・301	N-21°-W	7.11	3.40	3.02	0.08		逆台形	
W-7	第1面	X299, Y300・301	N-5°-W	2.95	1.05	0.43	0.09		浅い弧状	
W-8	第2面	X311, Y301・302	N-6°-W	2.56	1.79	0.62	0.23		弧状	

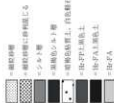
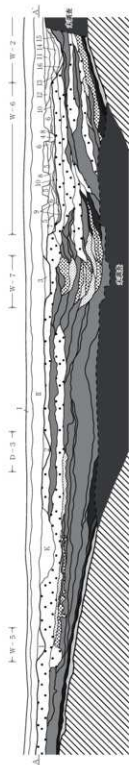
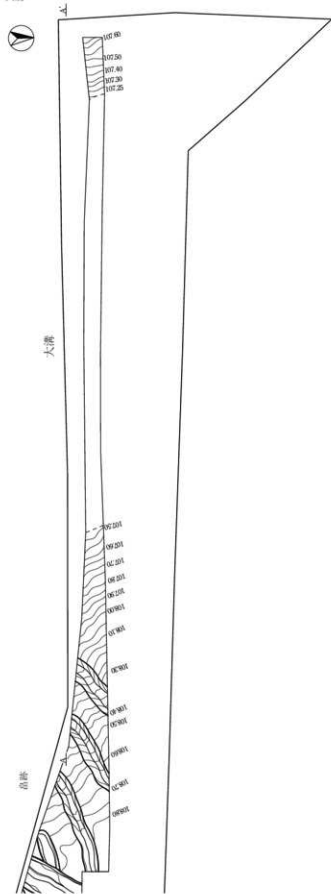
土坑

遺構名	確認面	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形状
D-1	第1面	X281, Y406・407	1.03	0.96	0.31	円形
D-2	第1面	X281, Y407	1.11	1.05	0.14	円形
D-3	第1面	X285, Y401	0.66	0.62	0.18	円形
D-4	第1面	X284・285, Y400	(1.23)	1.15	0.35	楕円形
D-5	第1面	X285, Y400・401	1.93	1.68	0.14	楕円形
D-6	第1面	X283, Y400	0.62	0.54	0.17	円形
D-7	第1面	X281, Y404	0.77	0.61	0.51	長楕円形
D-8	第1面	X281・282, Y402・403	(1.95)	(1.10)	0.17	長方形
D-9	第1面	X284・285, Y400・401	1.56	1.52	0.22	円形
D-10	第1面	X281, Y408	0.95	(0.81)	0.07	隅丸方形

ピット

遺構名	確認面	グリッド	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	平面形状
P-1	第1面	X281, Y405	0.19	0.19	0.27	円形
P-2	第1面	X281, Y405	0.29	0.29	0.32	円形
P-3	第1面	X286, Y400	0.38	0.17	0.24	円形
P-4	第1面	X281, Y400	0.25	0.24	0.09	円形
P-5	第1面	X284, Y400	0.30	0.29	0.16	円形
P-6	第1面	X283, Y400	0.27	0.27	0.23	円形
P-7	第1面	X281, Y400	0.49	0.43	0.35	楕円形

大溝



大溝 1区
 1 凝灰砂礫層。砂礫が凝灰砂礫層に比し、W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 2 凝灰砂礫層に砂礫混じり層。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 3 シルト層。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 4 凝灰色シルト層。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 5 凝灰色粘土層。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 6 白色層状凝灰土。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 7 砂層。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 8 砂礫層。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 9 砂層に粘土混じり層。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 10 粘土層。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 11 凝灰土。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 12 凝灰砂礫層。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 13 凝灰砂礫層に粘土混じり層。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 14 凝灰砂礫層に粘土混じり層。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 15 凝灰砂礫層に粘土混じり層。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 16 凝灰砂礫層に粘土混じり層。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 17 凝灰砂礫層に粘土混じり層。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。
 18 凝灰砂礫層に粘土混じり層。W-4層上、凝灰土を有し、粘質砂質。

Fig11 1区大溝

2 2区

(1) 竪穴建物跡

H-1号竪穴建物跡 (Fig.13・24, Tab. 5, PL. 5・10)

位置 X279・280, Y418・419 主軸方向 N-85°-E 規模 平面形状方形。東西軸 [28] m、南北軸 2.61 m、壁高 0.26 m 床面積 4.55 m² 床面 地山硬化床。一部で被熱の影響か焼土化している箇所がある。重複 H-19と重複。本遺構はH-19より新しい。カマド 東壁南隅に位置。大部分が試掘トレンチにより消失、燃焼室の半分が残存する。側壁が被熱により焼土化している。カマド前面には灰・焼土が広がる。出土遺物 土師器・須恵器の坏・甕が出土。須恵器塊(1・2)、かわらけ(3)を図示。(2)の内面には「十」の線刻がみられる。時期 出土遺物と重複関係から11世紀と想定される。

H-2号竪穴建物跡 (Fig.13・24, Tab. 5, PL. 5・10)

位置 X281, Y416・417 主軸方向 N-74°-W 規模 平面形状方形。東西軸 2.58 m、南北軸 3.14 m、壁高 0.36 m 床面積 8.00 m² 床面 地山硬化床 重複 H-10・11・14と重複。本遺構はH-10・11・14より新しい。カマド 東壁南隅に位置し、煙道が東へと延びる。カマド軸方向はN-63°-Wと建物主軸よりやや南方向へ振れる。燃焼室中央に支脚石、右袖には袖石が立つ。側壁と燃焼室底面は被熱により焼土化し、カマド前面に灰と炭化物が広がる。燃焼室は隅丸方形を呈し、覆土中には中型埴土と土器片が多く含まれていた。煙道部へは燃焼室奥壁で緩やかに立ち上がり東へと延びる。煙道部長 0.41 m。出土遺物 土師器・須恵器の坏・甕、灰軸陶器の塊が出土。灰軸陶器塊(1)、かわらけ(2)、羽釜(3・4)を図示。時期 出土遺物と重複関係から11世紀前半と想定される。

H-3号竪穴建物跡 (Fig.14・25, Tab. 5, PL. 6・10)

位置 X281・282, Y416・417 主軸方向 N-3°-W 規模 平面形状方形。東西軸 4.19 m、南北軸 3.15 m、壁高 0.42 m 床面積 (11.40) m² 床面 地山硬化床 重複 H-10・11と重複。本遺構はH-10・11より新しい。カマド 東壁南隅に位置する。燃焼室は楕円形を呈し、カマド前面まで灰が広がる。燃焼室底面からは須恵器塊(1)と土釜(2)が出土している。煙道は消失しているが燃焼室奥壁で垂直気味に立ち上がり、東へ延びていたと想定される。出土遺物 土師器・須恵器の坏・甕、灰軸陶器の塊が出土。須恵器塊(1)、土釜(2)、羽釜(3)を図示。時期 出土遺物と重複関係から10世紀後半と想定される。

H-4号竪穴建物跡 (Fig.15・25, Tab. 5, PL. 6・10)

位置 X279, Y416・417 主軸方向 N-67°-W 規模 平面形状方形。東西軸 2.61 m、南北軸 2.37 m、壁高 0.20 m 床面積 6.40 m² 床面 地山硬化床。一部で被熱の影響か焼土化している箇所がある。重複 H-8と重複。本遺構はH-8より新しい。カマド 東壁南隅に位置する。燃焼室は楕円形を呈し、側壁と火床は被熱により焼土化している。煙道部へは燃焼室底面から緩やかに立ち上がり東へと延びる。煙道部長 0.48 m。出土遺物 須恵器・土師器の坏・甕が出土。羽釜(1)と円盤状鉄製品(2)を図示。円盤状鉄製品は軸棒が判然としなが鉄製紡錘車の可能性が考えられる。時期 出土遺物と重複関係から11世紀と想定される。

H-5号竪穴建物跡 (Fig.15・16・25, Tab. 5, PL. 6・11)

位置 X279・280, Y422・423 主軸方向 N-83°-W 規模 平面形状方形。東側が試掘トレンチにより消失。西壁が調査区外となる。東西軸 (3.34) m、南北軸 (3.37) m、壁高 0.34 m 床面積 (10.85) m² 床面 地山硬化床 重複 H-6と重複。本遺構はH-6より新しい。カマド 東壁中央に位置。燃焼室は楕円形を呈する。燃焼室底面は被熱により焼土化している。南壁と調査区壁が交差する場所で焼土・炭化物が多く確認された。古い時期のカマドが存在していた可能性が考えられる。出土遺物 土師器・須恵器の坏・甕、灰軸陶器の塊が出土。灰軸陶器段皿(1)、塊(2)、須恵器塊(3・4)、坏(5・6)を図示。5は外面に墨書が確認できる。

「○」の中に文字が書かれていると考えられるが、不鮮明で判読が難しい。時期 出土遺物と重複関係から9

世紀末から10世紀初頭と想定される。

H-6号竪穴建物跡 (Fig.15・16・26, Tab. 5, PL. 6・11)

位置 X279・280, Y421・422 主軸方向 N-8°-E 規模 平面形状方形。東壁が試掘トレンチにより消失。西側が調査区外となる。東西軸(3.26)m、南北軸3.46m、壁高0.33m 床面積(10.54)㎡ 床面 地山硬化床 重複 H-5と重複。本遺構はH-5より古い。カマド 南壁中央に位置する。H-5に切られているため残存状況は良好ではない。楕円形の燃焼室を呈し、燃焼室底面には焼土粒が多く散る。出土遺物 土師器・須恵器の坏・甕、灰釉陶器の塊や鉄釘が出土。須恵器塊(1)、坏(2)、土師器甕(3)を図示。時期 出土遺物と重複関係から9世紀後半と想定される。

H-7号竪穴建物跡 (Fig.16・26, Tab. 5, PL. 7・11)

位置 X283・284, Y417・418 主軸方向 N-8°-E 規模 南側が調査区外。東西軸2.28m、南北軸(1.65)m、壁高0.57m 床面積(3.62)㎡ 床面 地山硬化床 カマド 確認できず 出土遺物 須恵器塊や土師器坏・甕が出土している。須恵器坏(1)を図示。時期 出土遺物と重複関係から9世紀代と想定される。

H-8号竪穴建物跡 (Fig.16・17・26・27, Tab. 5, PL. 7・11)

位置 X279・280, Y416・417 主軸方向 N-71°-W 規模 東西軸3.06m、南北軸3.81m、壁高0.21m 床面積 11.88㎡ 床面 地山硬化床。一部で被熱の影響か焼土化している箇所がある。重複 H-4と重複。本遺構はH-4より古い。カマド 東壁南東隅に2基、北東隅に1基確認。南東隅の2基は新旧関係があり、カマド1が新しく、カマド2が古い。カマド1は方形の燃焼室を持ち、覆土中から須恵器坏・土師器甕・礫が多く出土している。被熱により側壁と火床が焼土化している。煙道部は燃焼室奥壁で立ち上がり緩やかに東へ延びている。カマド2は燃焼室が円形状を呈し、側壁が被熱により焼土化している。灰・炭化物が燃焼室から本建物跡へ延びることからH-8のカマドと認定した。周辺からは須恵器坏・甕片が多く出土している。煙道は不明瞭で確認できず。出土遺物 灰釉陶器塊(1)、須恵器塊(2~5)、かわらけ(6)、土師器甕(7)、羽釜(8)を図示。時期 出土遺物と重複関係から10世紀後半と想定される。

H-9号竪穴建物跡 (Fig.14・27, Tab. 5, PL. 7・11)

位置 X281・282, Y417・418 主軸方向 N-82°-W 規模 南半部が調査区外。東西軸3.14m、南北軸(1.75)m、壁高0.32m 床面積(5.97)㎡ 床面 地山硬化床 重複 H-11と重複。本遺構はH-11より古い。カマド 東壁に位置する。一部調査区外となる。燃焼室は平面楕円形を呈する。燃焼室奥の底面は被熱して焼土化し、カマド前面には灰と炭化物が広がる。出土遺物 土師器・須恵器の坏・甕が出土している。須恵器坏(1)、銅製丸柄の裏金具(2)を図示。時期 出土遺物と重複関係から9世紀前半と想定される。

H-10号竪穴建物跡 (Fig.17, PL. 7)

位置 X281, Y416 主軸方向 N-81°-W 規模 東西軸(2.81)m、南北軸(1.63)m、壁高0.19m 床面積(2.20)㎡ 床面 地山硬化床 重複 H-2・3・14と重複。本遺構はH-14より新しく、H-2・3より古い。カマド 確認できず 出土遺物 灰釉陶器・須恵器・土師器が少量出土している。時期 出土遺物と重複関係から9世紀代と想定される。

H-11号竪穴建物跡 (Fig.14・27, Tab. 5, PL. 7, 巻頭図版2)

位置 X281・282, Y417 主軸方向 N-82°-W 規模 東西軸4.11m、南北軸(1.95)m、壁高0.35m 床面積(5.52)㎡ 床面 地山硬化床 重複 H-3・9と重複。本遺構はH-3より古く、H-9より新しい。カマド 確認できず 出土遺物 緑釉陶器段皿(1)を図示。その他に灰釉陶器塊、須恵器坏、土師器甕が出土している。時期 出土遺物と重複関係から9世紀後半と想定される。

H-12号竪穴建物跡 (Fig.17・27, Tab. 5, PL. 7・12)

位置 X277・278, Y417 主軸方向 N-82°-W 規模 北東側のみ確認。他は調査区外。東西軸(3.73)m、

南北軸 (1.74) m、壁高 0.30 m 床面積 (6.30) m² 床面 地山硬化床 カマド 東壁に位置する。大部分が調査区外。燃焼室底面は被熱の影響で焼土化し、その直上には灰が広がる。出土遺物 灰軸陶器小壺 (1)、須恵器壺 (2)、かわらけ (3~5)、羽釜 (6) を図示。羽釜の口縁部外面に線刻が施されている。時期 出土遺物と重複関係から 11 世紀前半と想定される。

H-13 号竪穴建物跡 (Fig.18・28, Tab. 5, PL. 8・12)

位置 X278・279、Y417・418 主軸方向 N-79°-W 規模 南西部が調査区外。東西軸 4.10 m、南北軸 2.56 m、壁高 0.39 m 床面積 (4.84) m² 床面 地山硬化床 カマド 東壁に位置する。燃焼室は平面楕円形を呈する。出土遺物 炭化物と焼土粒を多量に含む土層から土師器杯・甕、須恵器甕・瓶、灰軸陶器壺・瓶、緑釉陶器片が出土。灰軸陶器壺 (1・2)、須恵器皿 (3)、長頸瓶 (4)、壺 (5)、銅製巡方 (6) を図示。時期 出土遺物と重複関係から 9 世紀後半と想定される。備考 覆土中位~床面直上にかけて多量の炭化物と焼土粒を含む土層が確認された。焼失家屋の可能性が考えられる。

H-14 号竪穴建物跡 (Fig.18・28, Tab. 5, PL. 8・12)

位置 X280・281、Y415・416 主軸方向 N-85°-W 規模 東西軸 3.57 m、南北軸 2.82 m、壁高 0.10 m 床面積 (9.91) m² 床面 地山硬化床 重複 H-2・10 と重複。本遺構は H-2・10 より古い。カマド 北東隅に位置する。両袖に土師器甕を伏せて袖の芯材としている。燃焼室は平面長楕円形を呈する。カマド前面には灰・炭化物粒が広がる。燃焼室内は被熱の影響で若干焼土化している。煙道は確認されていないが燃焼室奥壁で直立し東へ延びていたと考えられる。出土遺物 土師器杯 (1)、甕 (2・3) を図示。2・3 はカマド両袖に伏せて芯材として使用されている。時期 出土遺物と重複関係から 6 世紀後半と想定される。

H-15 号竪穴建物跡 (Fig.19・29, Tab. 5, PL. 8・13)

位置 X281、Y417・418 主軸方向 N-83°-W 規模 南西隅が調査区外。東西軸 2.73 m、南北軸 2.92 m、壁高 0.08 m 床面積 (7.58) m² 床面 地山硬化床 カマド 東壁に位置する。燃焼室の平面形は不明。両袖に総社砂層の切り石を立て袖の芯材としている。燃焼室内に総社砂層の切り石を用いた支脚を立てる。燃焼室からカマド前面にかけて灰・炭化物が広がる。出土遺物 灰軸陶器小瓶 (1)、須恵器皿 (2)、杯 (3) を図示。その他に緑釉陶器片や灰軸陶器小瓶が出土している。時期 出土遺物と重複関係から 9 世紀と想定される。

H-16 号竪穴建物跡 (Fig.19, PL. 8)

位置 X280、Y415 主軸方向 N-87°-W 規模 南東隅のみ検出。大部分が調査区外。東西軸 (1.21) m、南北軸 (0.90) m、壁高 0.11 m 床面積 (1.04) m² 床面 地山硬化床 カマド 確認できず 出土遺物 灰軸陶器壺、須恵器・土師器の杯・甕が出土している。時期 出土遺物から 9 世紀と想定される。

H-17 号竪穴建物跡 (Fig.20・29, Tab. 5, PL. 8・13)

位置 X279、Y419・420 主軸方向 N-6°-W 規模 東西軸 1.95 m、南北軸 4.61 m、壁高 0.45 m 床面積 (7.24) m² 床面 地山硬化床。一部で被熱の影響か焼土化している箇所がある。重複 H-19 と重複。本遺構は H-19 より新しい。カマド 確認できず。北壁と調査区が交差する床面に灰が多く広がっていたことから北壁にカマドが付設されていた可能性が考えられる。出土遺物 炭化物と焼土粒を多量に含む土層から大量の土器が出土。灰軸陶器皿 (1)、耳皿 (2)、須恵器皿 (3)、壺 (4)、杯 (5) を図示。時期 出土遺物と重複関係から 9 世紀後半と想定される。備考 H-13 同様に覆土中に多量の炭化物と焼土粒が確認された。焼失家屋の可能性が考えられる。覆土中に大量の土器片が出土することも H-13 と共通する。

H-18 号竪穴建物跡 (Fig.19・29, Tab. 5, PL. 9・13)

位置 X285、Y416・417 主軸方向 N-1°-W 規模 南西部のみ検出。東西軸 (1.71) m、南北軸 (3.29) m、壁高 0.20 m 床面積 (5.19) m² 床面 地山硬化床 カマド 確認できず 出土遺物 灰軸陶器小瓶 (1)、須恵器壺 (2)、皿 (3) を図示。時期 出土遺物と重複関係から 9 世紀代と想定される。

H-19号竪穴建物跡 (Fig.20・30, Tab. 5, PL. 9・13)

位置 X279・280, Y418・419 主軸方向 N-71°-E 規模 西半が調査区外。東西軸(1.93)m、南北軸4.13m、壁高0.17m 床面積(6.69)㎡ 床面 地山硬化床 重複 H-1・17と重複。本遺構はH-1・17より古い。カマド 東壁中央に位置する。燃焼部は平面楕円形を呈し、床面から少し窪む。底面には灰・焼土粒が広がる。出土遺物 土師器杯(1)、須恵器瓶(2)を図示。時期 出土遺物と重複関係から8世紀前半と想定される。

H-20号竪穴建物跡 (Fig.20・30, Tab. 5, PL. 9・13)

位置 X284・285, Y417・418 主軸方向 N-85°-E 規模 北西部のみ検出。東西軸3.07m、南北軸2.10m、壁高0.35m 床面積(6.56)㎡ 床面 地山硬化床 カマド 東壁に位置。一部調査区外。燃焼室底面と側壁が被熱の影響で焼土化している。カマド前面から燃焼室にかけて灰・焼土粒が広がる。出土遺物 須恵器碗(1)、かわらけ(2)、羽釜(3)を図示。時期 出土遺物と重複関係から10世紀後半と想定される。

H-21号竪穴建物跡 (Fig.21, PL. 9)

位置 X283・284, Y417 主軸方向 N-87°-E 規模 建物の壁は確認することができず、硬化した床面のみ検出。東西軸(2.49)m、南北軸(1.38)m 床面積(2.86)㎡ 床面 地山硬化床。一部で被熱の影響か焼土化している箇所がある。重複 W-2と重複。本遺構はW-2より古い。カマド 建物範囲の東側に突出した焼土範囲が確認された。これが当遺構のカマドの火床と推定される。周囲には若干の炭化物と灰が散る。出土遺物 灰釉陶器、須恵器、土師器が少量出土している。時期 出土遺物が少量で判然としないが9～10世紀代と想定される。

(2) 集石遺構

1号集石 (Fig.21, PL. 9)

調査区南側、H-5・6の覆土中から検出。確認当初は被熱して一部焼土化している総社砂層の切石と川原石で組まれた石組のカマドと想定した。しかし、十字にトレンチを入れて内部の確認調査を行ったところ焼土粒や灰・炭化物の混入もみられず、燃焼室や煙道の立ち上がりも確認できなかったことから集石遺構と判断し調査を行った。以上の状況からカマドで使用された石を廃棄した痕跡であった可能性が考えられる。H-5の覆土上にあることから10世紀以降の痕跡と想定される。出土遺物なし。

(3) 溝・井戸・土坑・ビット (Fig.21・22・30・31, Tab. 4・5, PL.13・14)

計測値については「Tab. 4 2区溝・井戸・土坑・ビット計測表」を参照のこと。

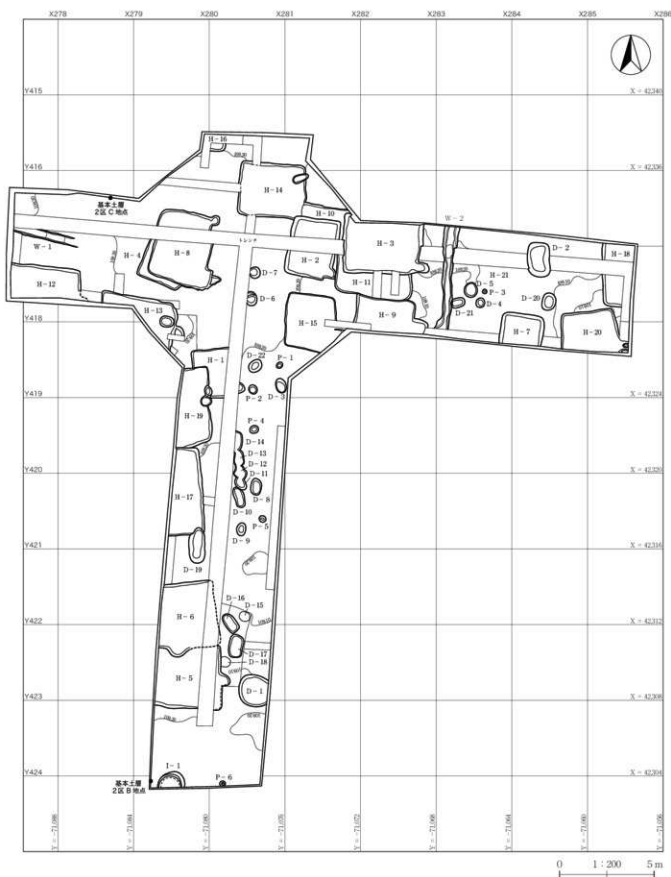
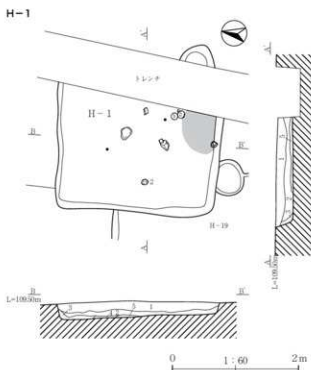
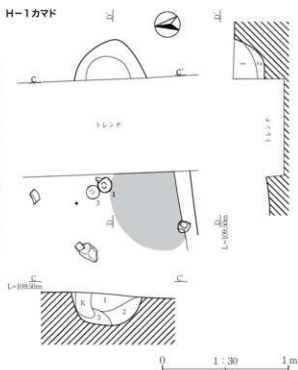


Fig.12 2区全体图



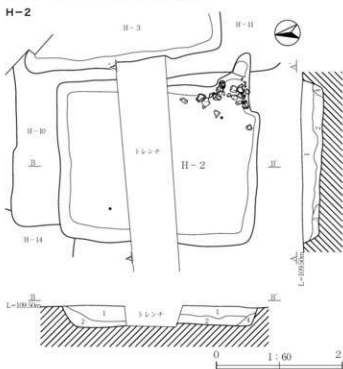
H-1号竪穴建物跡 SPA・B

- 1 焼褐色土 (30YK2-4) 白色軽石・焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 2 焼褐色土 (30YK3-4) 白色軽石・焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
- 3 焼褐色土 (30YK3-2) 焼褐色土アロック多量。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
- 4 赤褐色土 (20YK3-2) 焼土粒多量。風を多量含む。締まり有り、粘性有り。
- 5 赤褐色土 (30YK3-2) 灰・炭化物を多量含む。締まり有り、粘性有り。



H-1号竪穴建物跡カマド SPC・D

- 1 焼褐色土 (30YK3-4) 白色軽石・焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 2 焼褐色土 (30YK3-4) 焼土アロック・灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 3 焼褐色土 (30YK3-4) 焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。



H-2号竪穴建物跡 SPA・B

- 1 赤褐色土 (30YK3-2) 炭化物粒を多量、焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 2 赤褐色土 (30YK3-4) 黄褐色土アロックを多量、焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 3 赤褐色土 (30YK3-4) 黄褐色土上層。炭化物粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。
- 4 赤褐色土 (30YK3-4) 焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

H-2号竪穴建物跡カマド SPC・D

- 1 赤褐色土 (30YK3-2) 炭化物粒を多量、焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 2 赤褐色土 (30YK3-4) 黄褐色土アロックを多量、焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 3 赤褐色土 (30YK3-4) 黄褐色土上層。炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
- 4 焼褐色土 (30YK3-4) 白色軽石・焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 5 焼褐色土 (30YK3-4) 焼褐色粘質土アロックを少量、白色軽石・焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
- 6 焼褐色土 (30YK3-4) 焼褐色粘質土アロック・炭化物を少量、白色軽石・焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。

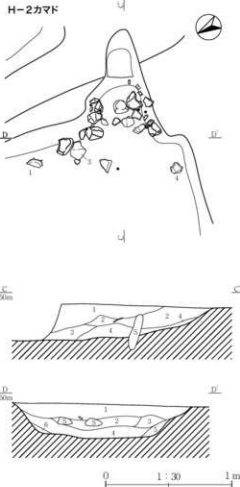
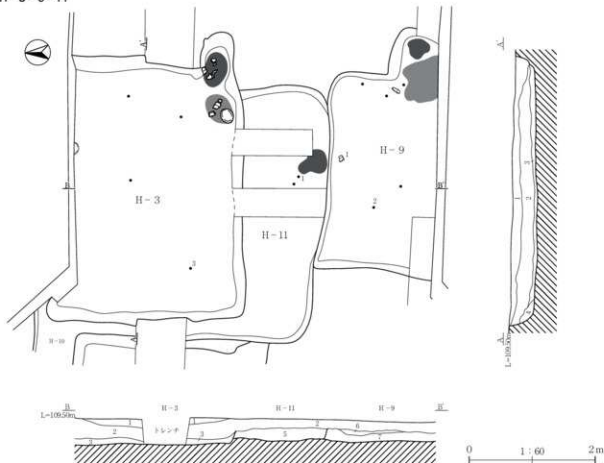


Fig.13 2区H-1・2号竪穴建物跡

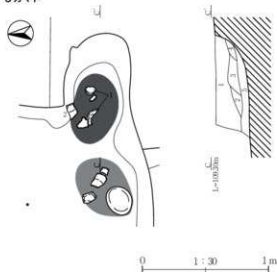
H-3・9・11



H-3・9・11号竪穴建物跡 SPA-B

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土粒・灰化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。H-3覆土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土粒・灰化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。H-3覆土。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土粒・灰化物を少量含む。締まり有り、粘性やや弱い。H-3覆土。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土粒・灰化物を微量含む。締まり有り、粘性やや弱い。H-3覆土。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 白色顔料を少量。焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。H-11覆土。
- 6 暗褐色土 (10YR3/2) 灰化物を多量。焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。H-9覆土。
- 7 暗褐色土 (10YR3/4) 白色顔料・焼土粒・灰化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。H-9覆土。

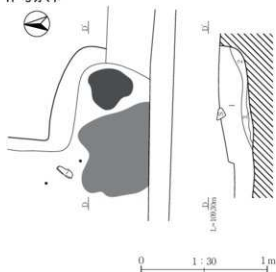
H-3カマド



H-3号竪穴建物跡カマド SPC

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土粒・灰化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 灰土状。灰化物を少量含む。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土粒・灰化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土粒・灰化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 灰を多量。焼土プロット・灰化物を少量含む。締まりやや弱い、粘性やや弱い。

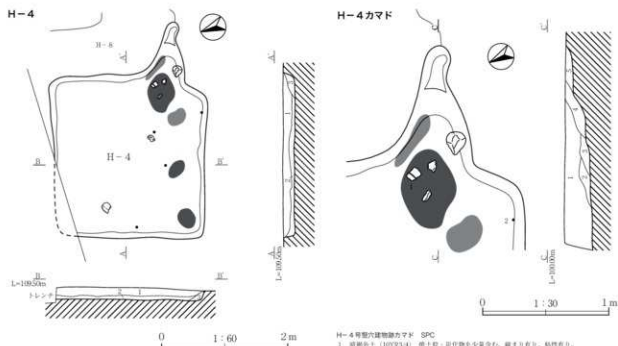
H-9カマド



H-9号竪穴建物跡カマド SPO

- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 白色顔料・焼土粒・灰化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土プロットを多量。灰化物・灰を微量含む。締まり有り、粘性有り。
- 3 暗褐色土 (10YR3/2) 灰土状。焼土粒・灰化物を微量含む。締まり有り、粘性やや弱い。

Fig.14 2区H-3・9・11号竪穴建物跡



H-4号竪穴建物跡方マド SPA～目

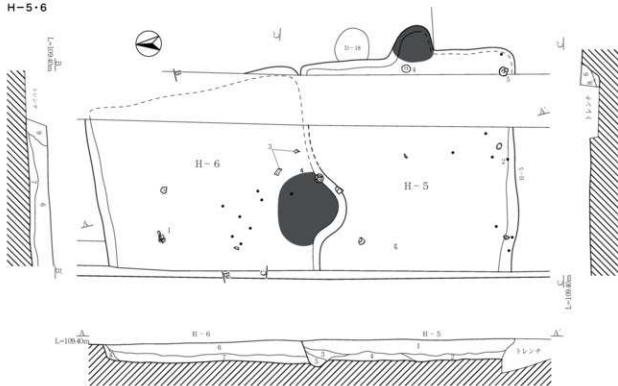
- 1 埴輪土 (10Y33:4) 焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 2 埴輪土 (10Y33:4) 焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
- 3 埴輪土 (10Y33:4) 焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性やや弱い。

H-4カマド

H-4号竪穴建物跡方マド SPC

- 1 埴輪土 (10Y33:4) 焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 2 埴輪土 (10Y33:4) 焼土プロット・炭・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 3 埴輪土 (10Y33:2) 炭を多量、炭化物を少量含む。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
- 4 埴輪土 (10Y34:4) 焼土プロットを多量、炭化物・炭を微量含む。締まりやや弱い、粘性やや弱い。
- 5 埴輪土 (10Y34:4) 焼土粒を多量、炭を少量、炭化物を微量含む。締まりやや弱い、粘性やや弱い。

H-5・6

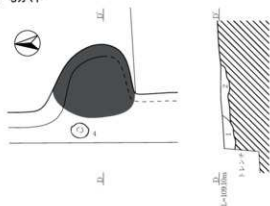


H-5・6号竪穴建物跡 SPA～C

- 1 埴輪土 (10Y33:4) 白灰粒石・焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。H-5層土。
- 2 埴輪土 (10Y33:4) 焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。H-5層土。
- 3 埴輪土 (10Y33:4) 焼土粒・炭化物粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。H-5層土。
- 4 埴輪土 (10Y33:4) 炭を少量、焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。H-5層土。
- 5 埴輪土 (10Y33:4) 焼土粒・炭質土プロットを少量含む。締まり有り、粘性有り。H-5層土。
- 6 埴輪土 (10Y33:4) 白灰粒石・焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。H-6層土。
- 7 埴輪土 (10Y33:4) 白灰粒石・焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性やや弱い。H-6層土。
- 8 埴輪土 (10Y33:4) 埴輪土粘質土プロット・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性やや弱い。H-6層土。
- 9 埴輪土 (10Y34:4) 焼土粒を多量含む。粘性有り。H-6層土。

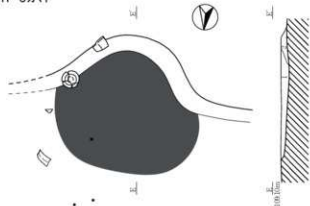
Fig.15 2区H-4～6号竪穴建物跡

H-5カマド



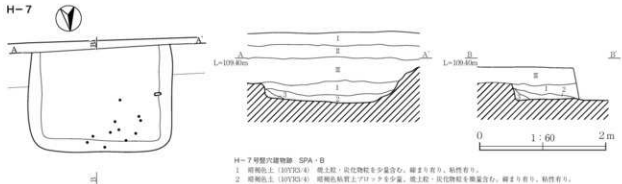
H-5号竈穴建物跡カマド SPD
 1 焼堀土 (10Y3C4) 焼土粒を多量含む。締まり有り、粘性有り。
 2 赤褐色土 (23Y3G2) 焼土アロックス状。締まり有り、粘性有り。

H-6カマド



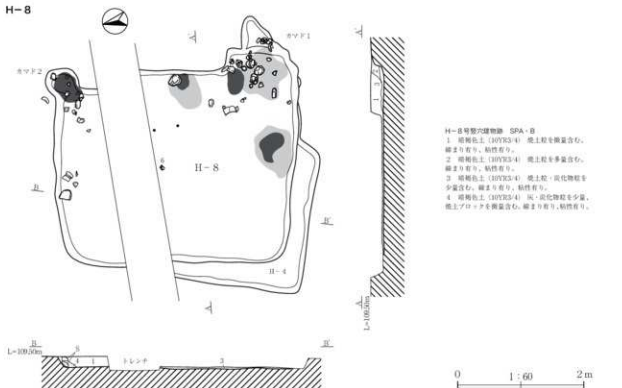
H-6号竈穴建物跡カマド SPE
 1 赤褐色土 (10Y3C2) 焼土粒を多量。灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。
 2 赤褐色土 (10Y3C2) 灰を少量。焼土粒を多量含む。締まり有り、粘性有り。

H-7



H-7号竈穴建物跡 SPA・B
 1 焼堀土 (10Y3C4) 焼土粒、灰化物粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
 2 赤褐色土 (10Y3C4) 焼堀土灰質上アロックス少量。焼土粒、灰化物粒を多量含む。締まり有り、粘性有り。
 3 赤褐色土 (23Y3G2) 焼土アロックス状。締まり有り、粘性有り。

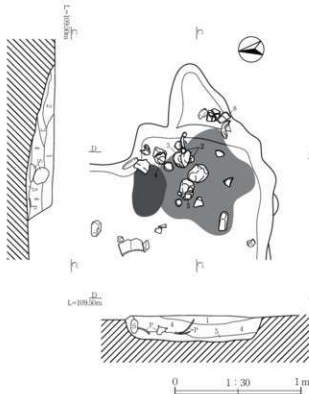
H-8



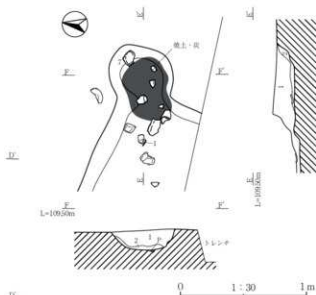
H-8号竈穴建物跡 SPA・B
 1 焼堀土 (10Y3C4) 焼土粒を多量含む。締まり有り、粘性有り。
 2 焼堀土 (10Y3C4) 焼土粒を多量含む。締まり有り、粘性有り。
 3 焼堀土 (10Y3C4) 焼土粒、灰化物粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
 4 焼堀土 (10Y3C4) 灰、灰化物粒を少量。焼土アロックスを多量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig16 2区H-5～8号竈穴建物跡

H-8カマド1



H-8カマド2



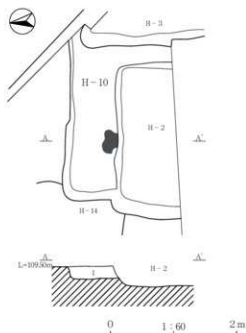
H-8号竪穴建物跡カマド1 SPC-D

- 1 焼褐色土 (30Y3/3-4) 焼土アロクを少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 2 焼褐色土 (30Y3/3-4) 白色軽石・焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 3 焼褐色土 (30Y3/3-2) 灰土多量。灰化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 4 焼褐色土 (30Y3/3-2) 白色軽石・灰化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 5 焼褐色土 (30Y3/2) 灰土少量含む。締まり有り、粘性有り。

H-8号竪穴建物跡カマド2 SPE-F

- 1 焼褐色土 (30Y3/3-4) 焼土粒・灰化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 2 焼褐色土 (30Y3/3-2) 灰土多量。灰化物を少量含む。締まり有り、粘性やや弱い。

H-10



H-10号竪穴建物跡 SPA

- 1 焼褐色土 (30Y3/3-4) 白色軽石・焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。

H-12号竪穴建物跡 SPA-B

- 1 焼褐色土 (30Y3/3-4) Aa赤土層に焼土粒・灰土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 2 焼褐色土 (30Y3/3-4) 白色軽石・焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 3 焼褐色土 (30Y3/3-2) 焼土アロクを少量、灰・灰化物を少量含む。締まり有り、粘性有り、カマド層上。
- 4 赤褐色土 (25Y3/2-2) 焼土アロク、灰土層、灰化物を少量含む。締まり有り、粘性有り、カマド層上。
- 5 赤褐色土 (25Y3/2-2) 焼土層、灰・灰化物を少量含む。締まり有り、粘性有り、カマド内底。
- 6 焼褐色土 (30Y3/3-4) 灰化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 7 焼褐色土 (30Y3/3-4) 灰土を少量含む。締まり有り、粘性有り。

H-12

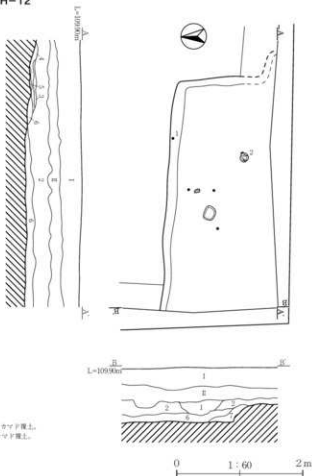
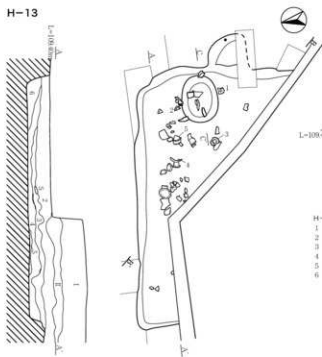
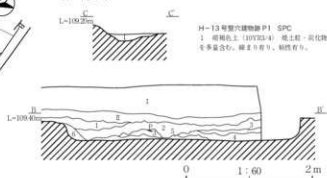


Fig.17 2区H-8・10・12号竪穴建物跡

H-13



H-13 P1

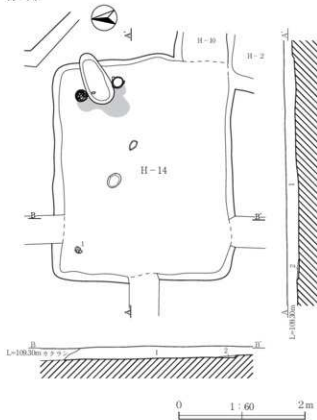


H-13号竪穴建物跡 P1 SPC
1 暗褐色土 (10Y3/3-4) 焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

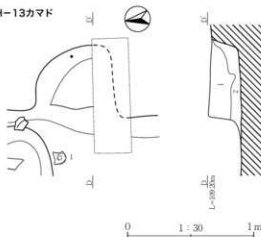
H-13号竪穴建物跡 SPA・B

- 1 暗褐色土 (10Y3/3-4) 白色軽石・焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 2 暗褐色土 (10Y3/3-4) 焼土粒・炭化物を多量、白色軽石を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 3 黒褐色土 (10Y3/2-3) 炭化物・焼土粒・灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 4 黒褐色土 (10Y3/2-3) 炭化物主体、焼土粒・灰を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 5 暗褐色土 (10Y3/3-4) 炭化物を多量含む。締まり有り。
- 6 暗褐色土 (10Y3/3-4) 白色軽石・炭化物を多量含む。締まり有り、粘性有り。

H-14



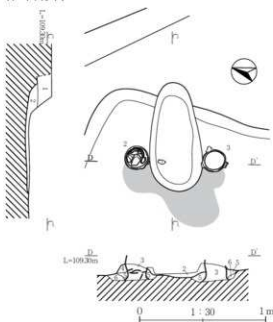
H-13カマド



H-13号竪穴建物跡カマド SPO

- 1 暗褐色土 (10Y3/3-4) 炭化物を多量、焼土粒を多量含む。締まり有り、粘性有り。
- 2 暗褐色土 (10Y3/3-4) 炭化物を多量含む。締まり有り、粘性有り。

H-14カマド

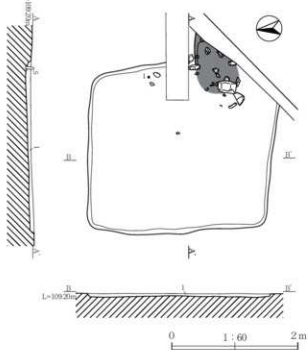


H-14号竪穴建物跡 SPA・B

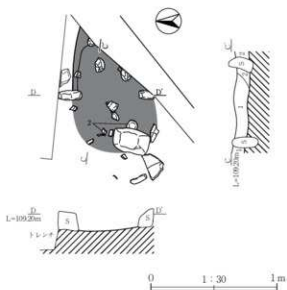
- 1 暗褐色土 (10Y3/3-4) 白色軽石・焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 2 暗褐色土 (10Y3/3-4) 焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。
- 3 暗褐色土 (10Y3/3-4) 白色軽石を多量含む。締まり有り、粘性有り。
- 4 暗褐色土 (10Y3/3-4) 白色軽石を多量含む。カマド跡有り。締まり有り、粘性有り。
- 5 暗褐色土 (10Y3/3-4) 焼土粒を多量含む。カマド跡有り。締まり有り、粘性有り。
- 6 黒褐色土 (10Y3/2-3) 炭化物を多量含む。カマド跡有り。締まり有り、粘性有り。

Fig18 2区H-13・14号竪穴建物跡

H-15

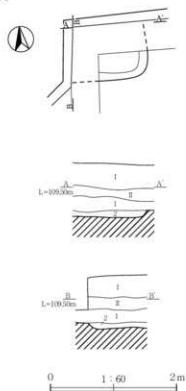


H-15カマド



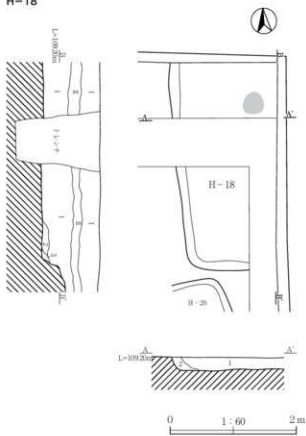
H-15号竪穴建物跡 SPA・B
 1 暗褐色土 (10Y3/3-4) 白色軽石・焼土層・炭化物を散見含む。締まり有り、粘性有り。
 H-15号竪穴建物跡カマド SPA・D
 1 暗褐色土 (10Y3/3-3) 焼土層・炭化物を散見含む。締まり有り、粘性有り。
 2 暗褐色土 (10Y3/3-2) 灰を多量。焼土層・炭化物を散見含む。締まり有り、粘性有り。

H-16



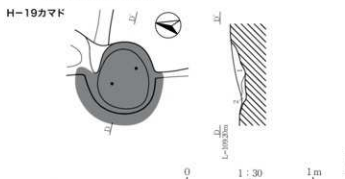
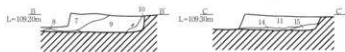
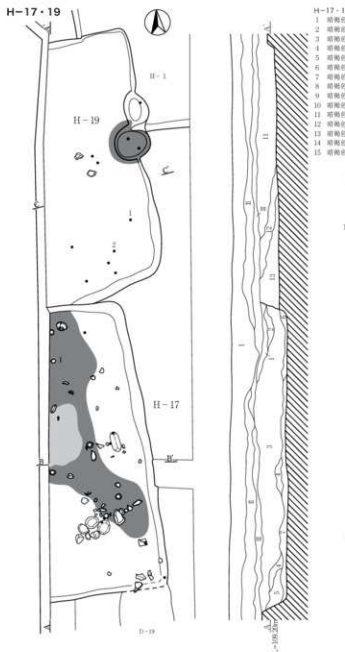
H-16号竪穴建物跡 SPA・B
 1 暗褐色土 (10Y3/3-4) 白色軽石・焼土層・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
 2 暗褐色土 (10Y3/3-4) 焼土層・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

H-18



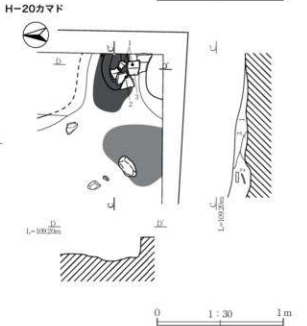
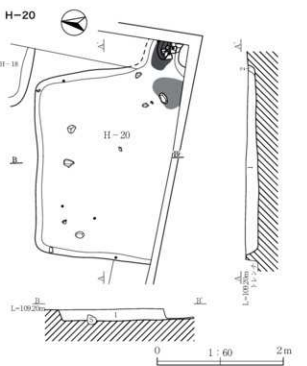
H-18号竪穴建物跡 SPA・B
 1 暗褐色土 (10Y3/3-4) 白色軽石・焼土層を少量含む。締まり有り、粘性有り。
 2 暗褐色土 (10Y3/3-4) 白色軽石を少量含む。締まり有り、粘性不十分強々。
 3 暗褐色土 (10Y3/2-3) 焼土層を少量含む。締まり有り、粘性有り。

Fig.19 2区H-15・16・18号竪穴建物跡



H-19号竪穴建物跡カマド SPD
 1 原褐色土 (10Y2/3) 灰土層、焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
 2 赤褐色土 (2.5Y3/2) 焼土・アロツタ土層。灰・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。

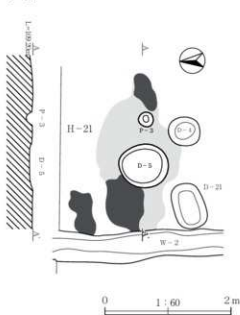
H-17・19号竪穴建物跡 SPA-B-C
 1 原褐色土 (10Y2/3-4) 炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。H-17層上。
 2 原褐色土 (10Y2/3-4) 焼土・アロツタを少量、炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。H-17層上。
 3 原褐色土 (10Y2/3-4) 白色粉石・焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。H-17層上。
 4 原褐色土 (10Y2/3-4) 焼土粒を多量含む。締まり有り、粘性有り。H-17層上。
 5 原褐色土 (10Y2/3-4) 白色粉石を少量、炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。H-17層上。
 6 原褐色土 (10Y2/3-3) 炭化物を多量含む。締まり有り、粘性有り。H-17層上。
 7 原褐色土 (10Y2/3-2) 炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。H-17層上。
 8 原褐色土 (10Y2/3-2) 炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。H-17層上。
 9 原褐色土 (10Y2/3-2) 焼土粒を少量含む。締まり有り、粘性有り。H-17層上。
 10 原褐色土 (10Y2/3-3) 焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。H-17層上。
 11 原褐色土 (10Y2/3-2) 白色粉石・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。H-17層上。
 12 原褐色土 (10Y2/3-2) 白色粉石・炭化物を少量、焼土粒を微量含む。締まり有り、粘性有り。H-19層上。
 13 原褐色土 (10Y2/3-2) 白色粉石を少量、焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。H-19層上。
 14 原褐色土 (10Y2/3-4) 焼土粒・炭化物・灰を微量含む。締まり有り、粘性有り。H-19層上。
 15 原褐色土 (10Y2/3-4) 原褐色粘土・アロツタ土層。締まり有り、粘性中～強。H-19層上。



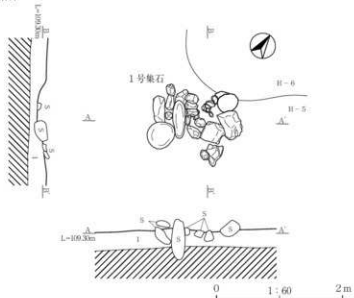
H-20号竪穴建物跡 SPA-B
 1 原褐色土 (10Y2/3-4) 白色粉石・焼土粒・炭化物を少量含む。締まり有り、粘性有り。
 2 原褐色土 (10Y2/3-4) 焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
 H-20号竪穴建物跡カマド SPD-C-D
 1 原褐色土 (10Y2/3-4) 焼土粒を少量、炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
 2 原褐色土 (10Y2/3-4) 焼土粒・炭化物を微量含む。締まり有り、粘性有り。
 3 原褐色土 (10Y2/3-2) 灰・炭化物土層。締まり強、粘性中～強。

Fig.20 2区 H-17・19・20号竪穴建物跡

H-21



1号集石



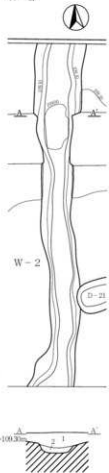
1号集石 SPA-B
 1 埴輪土 (10Y23-4) 白色黏石・焼土粒・灰化物を少量含む。縮まり有り。粘性有り。

W-1



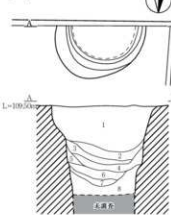
W-1号溝 SPA
 1 埴輪土 (10Y23-4) 白色黏石・焼土粒・灰化物を少量含む。縮まり有り。粘性有り。

W-2



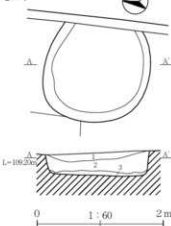
W-2号溝 SPA
 1 埴輪土 (10Y23-4) 白色黏石・焼土粒・灰化物を少量含む。縮まり有り。粘性有り。

I-1



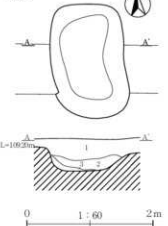
I-1号溝戸 SPA
 1 埴輪土 (10Y23-2) Aa-B 混土主体。焼土粒・灰化物を少量含む。縮まり有り。粘性や中強い。
 2 埴輪土 (10Y23-2) Aa-B 混土主体。埴輪土粘質土プロットを少量含む。縮まり有り。粘性や中強い。
 3 埴輪土 (10Y23-2) 褐色粘質土プロット・Aa-B 混土を少量含む。縮まり有り。粘性有り。
 4 埴輪土 (10Y23-2) 褐色粘質土プロット主体。Aa-B 混土を少量含む。縮まり有り。粘性有り。
 5 埴輪土 (10Y23-2) 褐色粘質土プロット主体。縮まり有り。粘性有り。
 6 埴輪土 (10Y23-4) Aa-B 混土主体。埴輪土粘質土プロットを少量含む。縮まり有り。粘性や中強い。
 7 埴輪土 (10Y23-4) 褐色粘質土プロット・Aa-B 混土を少量含む。縮まり有り。粘性有り。
 8 埴輪土 (10Y23-4) Aa-B 混土主体。埴輪土粘質土プロットを少量含む。縮まり有り。粘性や中強い。

D-1



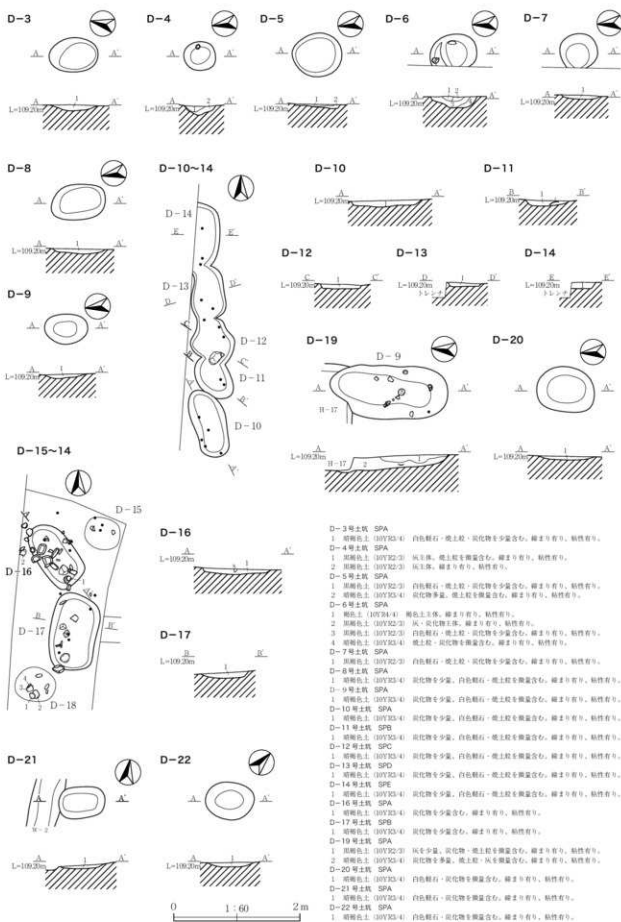
D-1号土坑 SPA
 1 埴輪土 (10Y23-2) Aa-B 混土主体。焼土粒・灰化物を少量含む。縮まり有り。粘性や中強い。
 2 埴輪土 (10Y23-2) Aa-B 混土主体。焼土粒・灰化物を少量含む。縮まり有り。粘性や中強い。
 3 埴輪土 (10Y23-2) Aa-B 混土主体。縮まり有り。粘性や中強い。

D-2



D-2号土坑 SPA
 1 埴輪土 (10Y23-4) 白色黏石・焼土粒・灰化物を少量含む。縮まり有り。粘性有り。
 2 埴輪土 (10Y23-4) 埴輪土粘質土プロット主体。焼土粒・灰化物を少量含む。縮まり有り。粘性有り。
 3 埴輪土 (10Y23-4) 埴輪土粘質土プロット主体。縮まり有り。粘性有り。

Fig21 2区H-21号竪穴建物跡、1号集石、溝、土坑 (1)



- D-3号土坑 SPA
1 灰褐色土 (3)Y23-4 白色粗石-硬土胶-炭化物少量含石, 硬土有, 粘性有。
- D-4号土坑 SPA
1 灰褐色土 (3)Y22-2 灰土胶, 硬土胶半硬含石, 硬土有, 粘性有。
- D-5号土坑 SPA
1 灰褐色土 (3)Y23-2 白色粗石-硬土胶-炭化物少量含石, 硬土有, 粘性有。
2 灰褐色土 (3)Y23-4 炭化物多量, 硬土胶半硬含石, 硬土有, 粘性有。
- D-6号土坑 SPA
1 褐色土 (3)Y24-4 褐色土主体, 硬土有, 粘性有。
- D-8号土坑 SPA
1 灰褐色土 (3)Y22-2 灰-炭化物主体, 硬土有。
- D-9号土坑 SPA
1 灰褐色土 (3)Y23-4 白色粗石-硬土胶-炭化物少量含石, 硬土有, 粘性有。
2 灰褐色土 (3)Y23-4 硬土胶-炭化物半硬含石, 硬土有, 粘性有。
- D-7号土坑 SPA
1 灰褐色土 (3)Y22-2 白色粗石-硬土胶-炭化物少量含石, 硬土有, 粘性有。
- D-10号土坑 SPA
1 灰褐色土 (3)Y23-4 炭化物少量, 白色粗石-硬土胶半硬含石, 硬土有, 粘性有。
- D-11号土坑 SPA
1 灰褐色土 (3)Y23-4 炭化物少量, 白色粗石-硬土胶半硬含石, 硬土有, 粘性有。
- D-12号土坑 SPC
1 灰褐色土 (3)Y23-4 炭化物少量, 白色粗石-硬土胶半硬含石, 硬土有, 粘性有。
- D-13号土坑 SPD
1 灰褐色土 (3)Y23-4 炭化物少量, 白色粗石-硬土胶半硬含石, 硬土有, 粘性有。
- D-14号土坑 SPE
1 灰褐色土 (3)Y23-4 炭化物少量, 白色粗石-硬土胶半硬含石, 硬土有, 粘性有。
- D-16号土坑 SPA
1 灰褐色土 (3)Y23-4 炭化物少量含石, 硬土有, 粘性有。
- D-17号土坑 SPD
1 灰褐色土 (3)Y23-4 炭化物少量含石, 硬土有, 粘性有。
- D-19号土坑 SPA
1 灰褐色土 (3)Y22-2 灰土少量, 炭化物-硬土胶半硬含石, 硬土有, 粘性有。
2 灰褐色土 (3)Y23-4 炭化物多量, 硬土胶-灰土硬含石, 硬土有, 粘性有。
- D-20号土坑 SPA
1 灰褐色土 (3)Y23-4 白色粗石-炭化物半硬含石, 硬土有, 粘性有。
- D-21号土坑 SPA
1 灰褐色土 (3)Y23-4 白色粗石-炭化物半硬含石, 硬土有, 粘性有。
- D-22号土坑 SPA
1 灰褐色土 (3)Y23-4 白色粗石-炭化物半硬含石, 硬土有, 粘性有。

Fig.22 2区土坑(2)

Tab. 4 2区溝・井戸・土坑・ピット計測値
溝

遺構名	グリッド	主軸方向	幅員長 (m)	上幅 (m)	下幅 (m)	深さ (m)	断面形状	備考
W-1	X277・278, Y416・417	N-76°-W	3.59	0.51	0.29	0.18	箱形	
W-2	X282・283, Y416・418	N-2°-E	5.88	0.75	0.17	0.13	U字状	

井戸

遺構名	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	確認深度 (m)	平面形状	出土遺物	備考
I-1・2	X279, Y423・424	1.42	(0)90	1.43	円形	土師器、須恵器	

土坑

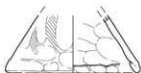
遺構名	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	備考	遺構名	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	備考
D-1	X280, Y422・423	1.68	(1.50)	0.20	円形		D-12	X280, Y419・420	0.69	0.61	0.09	楕円形	
D-2	X284, Y416・417	1.81	1.16	0.42	楕丸方形		D-13	X280, Y419	(0)83	0.53	0.09	楕円形	
D-3	X280・283, Y418	0.78	0.54	0.12	楕円形		D-14	X280, Y419	(1.11)	0.40	0.09	楕円形	
D-4	X283, Y417	0.51	0.46	0.14	円形		D-15	X280, Y423	0.60	0.50	-	円形	
D-5	X283, Y417	0.78	0.70	0.04	円形		D-16	X280, Y423・422	1.09	0.69	0.08	楕丸方形	
D-6	X280, Y417	0.78	(0.49)	0.18	楕円形		D-17	X280, Y422	1.20	0.75	0.08	楕丸方形	
D-7	X280, Y417	0.60	(0.53)	0.08	楕円形		D-18	X280, Y422	0.66	0.54	-	楕円形	
D-8	X280, Y420	0.83	0.57	0.08	楕円形		D-19	X279, Y420・421	1.88	0.86	0.22	楕円形	
D-9	X280, Y420	0.68	0.48	0.06	楕円形		D-20	X284, Y417	0.92	0.71	0.06	楕円形	
D-10	X280, Y420	1.14	0.54	0.12	楕円形		D-21	X283, Y417	0.73	0.50	0.08	楕丸方形	
D-11	X280, Y420	0.74	0.53	0.10	楕円形		D-22	X280, Y418	0.77	0.60	0.06	楕円形	

ピット

遺構名	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	備考	遺構名	グリッド	長軸 (m)	短軸 (m)	深さ (m)	平面形状	備考
P-1	X280, Y418	0.37	0.30	0.05	楕円形		P-4	X280, Y419	0.47	0.40	0.05	楕円形	
P-2	X280, Y418	0.53	0.44	0.07	円形		P-5	X280, Y420	0.39	0.34	0.06	円形	
P-3	X283, Y417	0.24	0.22	0.09	円形		P-6	X280, Y420	0.30	(0)27	0.15	円形	

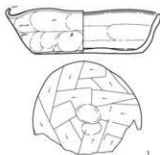
[1区]

W-1



1

D-3



1

W-8



1

1区表探



1



2 (1/4)



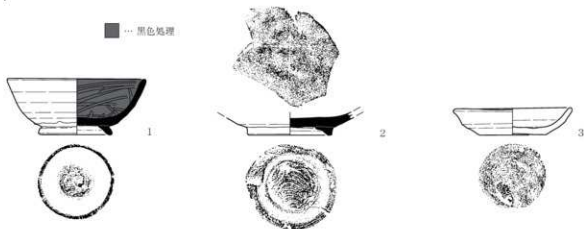
Fig.23 出土遺物 (1)

1区表探



【2区】

H-1



H-2

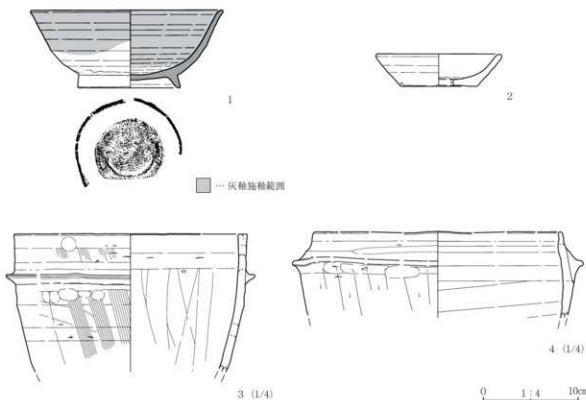
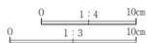
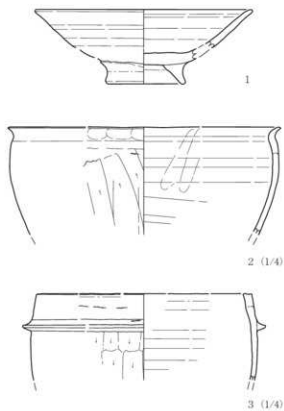


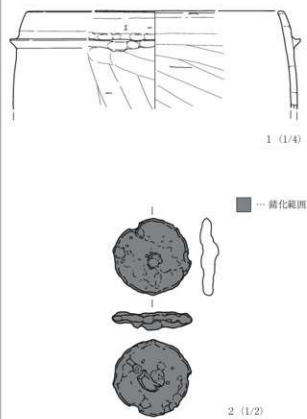
Fig.24 出土遺物(2)



H-3



H-4



H-5

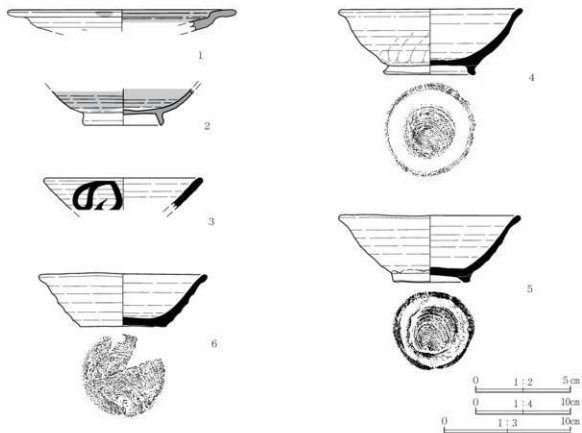
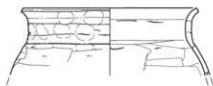


Fig.25 出土遺物 (3)

H-6



1



3 (1/4)



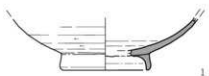
2

H-7

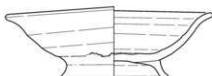


1

H-8



1



2



3



4

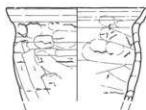


6

■ … 油煙付着範囲



5



7 (1/4)



Fig.26 出土遺物 (4)

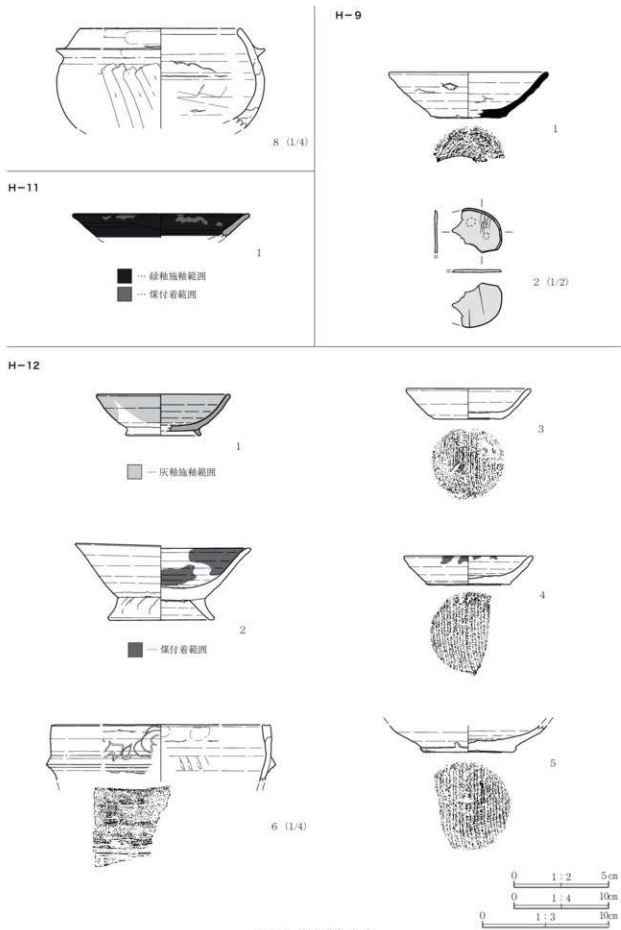
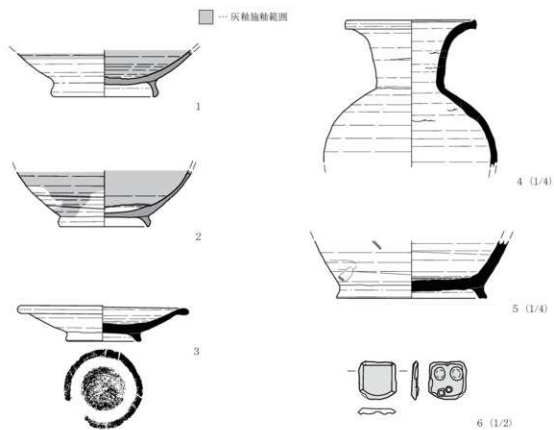


Fig.27 出土遺物 (5)

H-13



H-14

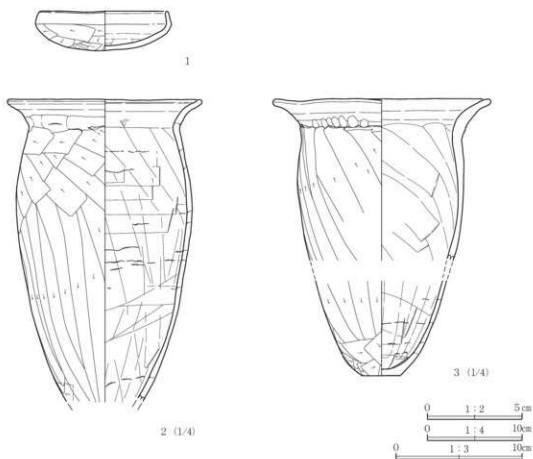
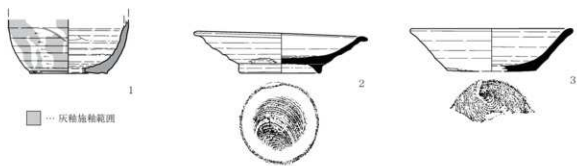
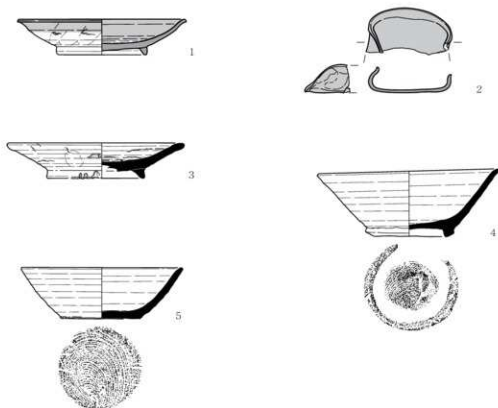


Fig.28 出土遺物 (6)

H-15



H-17



H-18

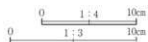
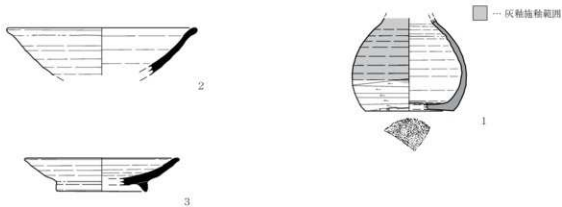


Fig.29 出土遺物 (7)

H-19



1

■ …自然粘付着範圍

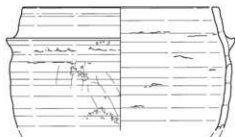


2 (1/4)

H-20



1



3 (1/4)

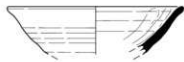


2

D-6



1



2

D-16



1



2



D-17



1

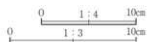
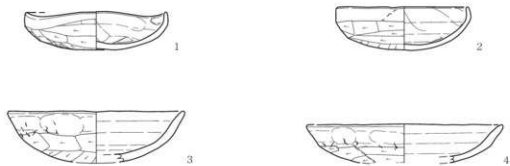


Fig.30 出土遺物 (8)



2区表探

■ …… 保存着範圍

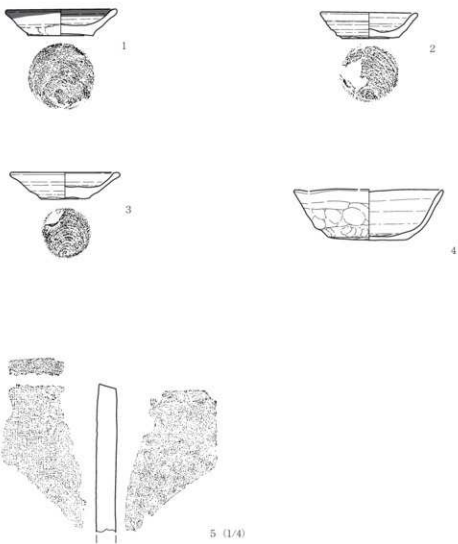


Fig.31 出土遺物 (9)

Tab. 5 出土遺物観察表

【1区】

W-1

No	出土位置	種類・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・製形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	C 黒土面	土師器 5字口・縁 付行壺	欠損	脚部径 (106)	(46)	灰・茶色軟、 緑石	良好	に濃い橙	外面上部縁位ハケケズリ後縁位エビダテ消し。肩部エビ ダテ。内面エビダテ。胴部折返し。	中部位～胴部片。

W-8

No	出土位置	種類・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・製形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 高坪	欠損	欠損	(54)	白色軟物 粒、灰包粒	堅緻	灰青	外面口縁位クロナテ後下平部回転ハケケズリ後脚部附付。 胴部クロナテ。内面クロナテ。	腰部下位～脚部上位残存。
2	覆土	土師器 甕	欠損	欠損	(26)	白・灰・茶 包粒	良好	に濃い橙	外面「く」字状に屈曲する部に浅線刻文を施した浅 帯をめぐらせ、上部の口縁部は横位ハケケズリ。胴部は 蓋位ハケケズリ。 内面口縁部から底部コナテ及びエビダテ。	胴部片。

D-3

No	出土位置	種類・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・製形、文様等の特徴	残存状況・備考
3	底面	土師器 坏	121	88	(26)	白・灰・茶 包粒、 赤面粒、 チャート	良好	に濃い橙	外面口縁から体部コナテ及びエビダテ。底部は下 部ハケケズリが施され、中央にやや深いエビダテオササが 認められる。上部の口縁部は横位ハケケズリ。胴部は 内面口縁部から底部コナテ及びエビダテ。	3/5残存。

1区表探

No	出土位置	種類・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・製形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	表探	須恵器 坏	欠損	(80)	(12)	白色軟物 粒、灰包粒	堅緻	黄灰	外面クロナテ。底部回転赤切り。 内面クロナテ。底部中央に「上」字状刷目あり。	腰部下位～底部片。
2	表探	須恵器 坏	[14]	(70)	3.5	白・灰・黒 包粒	堅緻	黄灰 灰オリーブ	外面クロナテ。底部回転赤切り。外面自然釉付着。 内面クロナテ。	1/3残存。
3	表探	土師器 坏	(120)	(58)	4.4	白色粒。 赤面粒、 チャート	良好	に濃い橙	外面口縁部コナテ。体部上の地に僅かな屈曲を持ち以 下腰部回転アサエビダテ。腰部多方向のハケケズリ。 内面口縁部コナテ。以下回転ナテ。	1/3残存。

【2区】

H-1

No	出土位置	種類・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・製形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	須恵器 碗	11.0	5.9	4.4	灰包粒、 赤面粒、 チャート	やや軟化端	黒 に濃い黄 緑	外面クロナテ。底部回転赤切り後高台付付。 内面クロナテが下段ノミを調整。黒包粒。	一部欠損。
2	床面	須恵器 碗	欠損	6.6	(18)	白・灰包粒、 緑石	堅緻	灰青	外面クロナテ。底部回転赤切り後高台付付。高台部 都立刷目。内面クロナテ。底部中央に「上」字状刷目あり。	腰部下位～底部残存。
3	床面	かわらけ	9.4	5.3	2.2	石膏、 白色軟物 粒、灰・茶 包粒	酸化焼	橙	外面クロナテ。底部回転赤切り。 内面クロナテ。	空存。 蓋み有り。

H-2

No	出土位置	種類・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・製形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	灰釉陶器 碗	15.3	8.0	6.2	白・黒・灰 包粒	堅緻	灰白	外面クロナテ。底部回転赤切り後高台付付。体部灰 釉施地。内面クロナテ。体部灰釉施地。	2/3残存。
2	覆土	かわらけ	(9)	(6.1)	2.6	灰包粒、 赤面粒、 チャート	良好	黒黄 灰黄	外面クロナテ。底部回転赤切り後ハケケズリ。 内面クロナテ。	1/5残存。
3	床面	須恵	(26.0)	欠損	(9.1)	石膏、白色 軟物粒、灰 包粒、赤面 粒	酸化焼	赤黄 黒黄	外面口縁部コナテ。腰部上位は内面。胴部回転ナテ後 縁位ハケケズリ。腰部は23cmの厚みを持ち上縁が僅か に内凹。内面口縁部コナテ。以下回転ナテ。	口縁～胴中位片。 腰部径 (30) cm。
4	床面	須恵	(24.6)	欠損	(14.4)	白・灰包粒、 赤面粒、 チャート	酸化焼	橙 黄灰	外面口縁部コナテ。腰部上位は直立。口縁部平直。胴 部回転ナテ後縁位ハケケズリ及びエビダテ。腰部は上縁から 下にやや凹みを認む。内面口縁部コナテ。以下回転ナテ後縁位エビダテ。	口縁～胴中位片。 腰部径 (26.4) cm。

H-3

No	出土位置	種類・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・製形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	カマド 燃焼室	須恵器 碗	(17.4)	6.4	(6.1)	石膏、 灰・茶包粒	酸化焼	明赤黄	外面クロナテ。底部回転赤切り後高台付付。 内面クロナテ。	口縁～底部破片。
2	カマド 燃焼室	土器	(28.8)	欠損	(11.4)	～4mm式の チャート、 白色軟物 粒、赤面粒	酸化焼	橙	外面口縁部コナテ。壁く外凹。以下胴部回転ナテ後 縁位ハケケズリ。内面口縁部コナテ。以下回転ナテ。	口縁～胴中位片。
3	床面	須恵	(22.8)	欠損	(9.1)	チャート、 白・灰包粒	酸化焼	橙	外面口縁部コナテ。腰部上位はやや内凹し、口縁部平 直。胴部回転ナテ後縁位ハケケズリ。腰部は上縁から 下に凹みを持つ。内面口縁部コナテ。以下回転ナテ。	口縁～胴上位片。 腰部径 (25.7) cm。

H-4

No	出土位置	種別、器種	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	引籠	(27.2)	欠損	(10.4)	石丸、 チャート、 灰・黒色粒、 黒色粒	酸化焰	橙	外面1層部はコナナテ、露部上には管口に内流、露部は転子や皿ヘラナテ及びユビナテ、露部は足みを持たし露が管口に内流。 内面1層部はコナナテ、以下同転ナテ。	1層～胴部上位片、 露部径 3.06 cm。
No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	材質	重量	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	床面	鉄製品 不明	4.1	4.1	0.9	鉄	13.8	-	円形を呈し、裏・裏面の中央に僅かに隆起する欠損部の痕跡、総線率の円盤部分。全面に高化が顕著。	円盤残存、鉄製紡錘車小。

H-5

No	出土位置	種別、器種	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	灰釉陶器 段皿	(18.0)	欠損	(1.7)	粘土質・ 黒色粒	灰釉	灰白	外面ロクロナテ。転子の1層と露部の間に段を有して、各部下位同転ヘラナテ。 内面ロクロナテ、灰釉施施。	1層～一部中位片。
2	床面	灰釉陶器	欠損	(6.1)	(2.9)	石丸、 黒色粒	灰釉	灰オリーブ 灰	外面ロクロナテ。底部(回転赤切り後)回転ヘラナテリ 長台台給付け。体部は輪軸。 内面ロクロナテ。体部は輪軸。	体部中位～底部片。
3	覆土	磁器器 環	(12.4)	欠損	(2.5)	白・灰・黒 色粒	還元焰	黒灰	外面ロクロナテ。墨書有り。 内面ロクロナテ。	1層～一部中位片。
4	床面	磁器器 碗	14.5	7.0	5.2	～6mm大 の石・灰 色粒	還元焰	黒灰	外面ロクロナテ。底部回転赤切り後高台給付け。 内面ロクロナテ。	4.5残存。
5	床面	磁器器 碗	14.3	6.0	5.3	灰・黒色粒、 輝石	還元焰	灰青	外面ロクロナテ。底部回転赤切り後高台給付け。 内面ロクロナテ。	1層部一部欠損。 足み有り。
6	カマド	磁器器 環	(3.4)	6.6	4.2	チャート 粒・灰 色粒、輝石	還元焰	灰青	外面ロクロナテ。底部回転赤切り。 内面ロクロナテ。	2.5残存。

H-6

No	出土位置	種別、器種	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	磁器器 碗	(15.0)	(7.5)	5.9	～5mm大の 小石、黒・ 灰色粒	還元焰	黒灰	外面ロクロナテ。底部回転赤切り後高台給付け。 内面ロクロナテ。墨付。	1.3残存。
2	床面	磁器器 環	13.5	7.3	4.3	～10mmの小 石・白・灰 色粒	やや還元焰	にまじり 橙	外面ロクロナテ。底部回転赤切り。 内面ロクロナテ。	ほぼ完了。 足み有り。
3	床面	土師器 甕	(18.2)	欠損	(7.2)	白・灰色粒、 黒色粒	良好	橙	外面1層部はコナナテ、口縁から露部は「コ」の字状を呈し、以下露部上は輪軸ヘラナテ。 内面1層部はコナナテ、以下ヘラナテ。	1層～胴部上位片。

H-7

No	出土位置	種別、器種	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	磁器器 環	欠損	6.7	(3.5)	白・灰色粒、 丸石	還元焰	黒灰	外面ロクロナテ。底部回転赤切り。 内面ロクロナテ。	体部中位～底部片。

H-8

No	出土位置	種別、器種	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	灰釉陶器 碗	欠損	(6.9)	(4.2)	粘土質、白 色顔料	灰釉	灰白	外面ロクロナテ。底部回転赤切り後、体部下位から底部 回転ヘラナテリ異変。高台給付け。 内面ロクロナテ。	体部中位～底部片。
2	床面	磁器器 碗	16.3	8.6	5.8	石丸、水石、 チャート、 白・灰色粒	還元焰	明青	外面ロクロナテ。底部(回転赤切り後)高台給付け後高 台内回転ナテ。 内面ロクロナテ。	3.5残存。
3	床面	磁器器 碗	(15.6)	7.8	5.9	石丸、 黒色粒、 チャート	やや還元焰	灰白 灰青	外面ロクロナテ。底部(回転赤切り後)高台給付け後高 台内回転ナテ。 内面ロクロナテ。	2.5残存。
4	床面	磁器器 碗	11.2	6.4	4.4	石丸、 黒色粒、 チャート	やや還元焰	浅青 明灰	外面ロクロナテ。底部(回転赤切り後)高台給付け後高 台内回転ナテ。 内面ロクロナテ。墨書付。	3.4残存。
5	床面	磁器器 碗	(12.0)	6.4	4.2	石丸、 チャート白、 灰色粒	やや還元焰	灰白	外面ロクロナテ。底部(回転赤切り後)高台給付け後高 台内回転ナテ。 内面ロクロナテ。	2.5残存。
6	床面	かわらけ	(8.2)	4.3	1.9	白・灰・茶 色顔料	良好	橙	外面ロクロナテ。底部回転赤切り。 内面ロクロナテ。	2.5残存。
7	床面	土師器 甕	(15.0)	欠損	(9.8)	石丸、 チャート	やや還元焰	浅青	外面1層部はコナナテ、露部ユビナテ及びユビオオテ。以 下露部はヘラナテリ及びユビナテ。輪軸の表背露部。 内面1層部はコナナテ、以下ヘラナテ及びユビナテ。	1層～胴部中位片。
8	床面	引籠	(16.9)	欠損	(10.5)	石丸、 チャート、 白・灰色粒、 丸石	還元焰	橙	外面1層部はコナナテ。露部上には内流。丸型の露部は回 転ナテ後斜段ヘラナテリ。露部は薄型で上縁に凹みを持 つ。内面1層部はコナナテ、以下同転ナテ後ヘラナテ。	1層～胴部中位片。

H-9

No	出土位置	種別・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・製形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	須恵部 坏	[125]	5.90	3.6	白・灰色胎、 黒・赤胎	還元焼	黄灰	外面口テロナナ。底部胎赤張り。 内面口テロナナ。	口縁一部片。
No	出土位置	種別・器種	長さ	幅	厚さ	材質	重量	色調	胎形、成・製形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	床面	須恵部 丸瓶	(26)	(24)	0.15	陶	20	-	裏金目。表面は周縁に面取りが施され、曲面に沿った細 数筋が認められる。緑着色している。	上半部片。

H-11

No	出土位置	種別・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・製形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	緑釉陶器 段蓋	[140]	欠損	(1.9)	粘土質	原始	灰白 オリーブ 灰	外面口テロナナ。緑釉施地。口縁部に塗層付着。 内面口テロナナ。口縁部に塗層付着。	口縁一部中位片。 器底脱落有り。

H-12

No	出土位置	種別・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・製形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	灰釉陶器 小瓶	[110]	6.2	3.2	粘土質	原始	灰白	外面口テロナナ。底部(胎赤張り後) 高台胎付け残高 内面口テロナナ。胎赤張り後。 内面口テロナナ。底部胎赤張り後。	1/2残存。
2	床面	須恵部 坏	14.0	8.4	6.1	石灰質胎、 白・灰色胎、 黒胎	還元焼	灰白・黄 橙	外面口テロナナ。底部(胎赤張り後) 高台胎付け残高 内面口テロナナ。胎赤張り後。 内面口テロナナ。塗層付着。	4/5残存。
3	覆土	かわらけ	[99]	5.7	2.4	チャート、 黒胎、灰・ 赤胎	良好	灰白	外面口テロナナ。底部赤張り切り。 内面口テロナナ。	2/5残存。
4	覆土	かわらけ	[101]	6.7	2.4	灰・赤色胎、 緑石	良好	灰白・黄 橙	外面口テロナナ。底部赤張り切り。口縁部塗層付着。 内面口テロナナ。口縁部塗層付着。	1/3残存。
5	覆土	かわらけ	欠損	7.2	(2.3)	チャート、 灰色胎	良好	灰白	外面口テロナナ。底部赤張り切り。	底部中位一部片。
6	覆土	岩釜	[230]	欠損	16.0	白・灰・赤 色胎	還元焼	灰白・黄 橙	外面口テロナナ。口縁部で1割部中央が窪みに閉じ、胎土 の1割部が窪みに埋め込まれた文様が認められ、窪み部中央に 三角形を呈する。窪み部 [24.2] cm。 内面口テロナナ。連続する押入模様が認められる。	口縁一部片。

H-13

No	出土位置	種別・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・製形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	灰釉陶器 小瓶	欠損	8.2	(3.6)	白色胎物 質、灰色胎	原始	黄灰	外面口テロナナ。底部(胎赤張り後) 高台胎付け残高 内面口テロナナ。三日月高台。底部胎赤張り後。 内面口テロナナ。胎赤張り後。	底部下位一部片残存。
2	床面	灰釉陶器 瓶	欠損	(7.1)	(4.5)	粘土質 胎、灰色胎 胎	原始	灰白	外面口テロナナ。底部(胎赤張り後) 高台胎付け残高 内面口テロナナ。三日月高台。底部胎赤張り後。 内面口テロナナ。底部(胎赤張り後) 高台胎付け残高。 内面口テロナナ。胎赤張り後。	底部中位一部片。
3	床面	須恵部 皿	13.3	5.9	2.8	灰色胎、 緑石	還元焼	黄灰	外面口テロナナ。底部胎赤張り高台胎付け。 内面口テロナナ。	3/4残存。
4	床面	須恵部 長瓶	[138]	欠損	(15.7)	白・灰色胎、 緑石	還元焼	黄灰	外面口テロナナ。口縁部は強く外湾し口縁部 を突出させる。胴部中位以下に塗層付着。器底に網落が認め られる。 内面口テロナナ。	口縁一部中位片残存。
5	床面	須恵部 壺	欠損	(15.8)	16.1	白色胎、 チャート	還元焼	黄灰 黒胎	外面口テロナナ。底部高台胎付け。高台内ニビナナ。胴 部に網落。 内面口テロナナ。	胴部下位一部片。
No	出土位置	種別・器種	長さ	幅	厚さ	材質	重量	色調	胎形、成・製形、文様等の特徴	残存状況・備考
6	覆土	須恵部 壺方弁	2.0	2.0	0.4	陶	39	緑灰	表面3面は垂直の断面形状が台形を呈する明瞭な筒を 作り、裏1面は緩やかな丸みを帯びた筒状に成形し て作られている。裏面には大きな異なる内径の 凸部が4ヶ所認められる。全体に緑着色している。	ほぼ完好。

H-14

No	出土位置	種別・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・製形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	土師部 坏	101	丸底	3.1	石灰、赤胎、 灰・灰色胎	良好	黄 黒	外面口縁部コナナ。口縁部は僅かに内湾し底部との境 に屈曲を伴う。以下ヘラツクリ。 内面口縁部コナナ。以下ヘラツクリ。	3/5残存。
2	カマド 左箱	土師部 甕	30.5	欠損	(32.0)	チャート、 石灰、緑石	良好	黄	外面口縁部コナナ。口縁は大きく外湾。胴部に連続し た内面口縁部コナナ。以下傾斜ヘラツクリ後段位ヘラツクリ 及びヒビナナ。	底部欠損。2/3残存。
3	カマド 右箱	土師部 甕	[230]	4.0	(29.5)	チャートと 石灰、緑石、 黒胎	良好	黄	外面口縁部コナナ。口縁は大きく外湾。底部に連続す るヒビナナを伴う。以下傾斜ヘラツクリ。 内面口縁部コナナ。以下傾斜ヘラツクリ及びヒビナナ。	口縁一部中位及び胴部下 位一部片残存。

H-15

No	出土位置	種類、器種	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	灰釉陶器 小瓶	欠損	(6.1)	(4.2)	粘土質、 白・灰色粒、 輝石	堅焼	灰白 灰ナリ ツ	外面ロクロナデ、底部(回転糸切り後)ヘラズリ調整、底部(回転糸切り後)回転ヘラズリ、高台部周りに凹し、長スリナデ、灰釉施す。 内面ロクロナデ、回転ヘラズリ調整。	腰部中位一底部分。
2	カマド 燃焼室	磁器器 皿	137	65	33	灰・茶色粒、 輝石	還元焼	灰青 黄灰	外面ロクロナデ、底部回転糸切り後高台貼付け、 内面ロクロナデ。	3/4残存。 芯み有り。
3	床面	磁器器 坏	(128)	(7.1)	34	灰・茶色粒、 黄藍粒	やや酸化焼	灰青	外面ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	1/3残存。

H-17

No	出土位置	種類、器種	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	灰釉陶器 皿	(134)	(7.0)	29	粘土質 白・黒色粒	堅焼	灰白	外面ロクロナデ、底部(回転糸切り後)高台貼付け後高台穴ビナデ、体部灰釉施す。 内面ロクロナデ、体部灰釉施す。	1/4残存。
2	覆土	灰釉陶器 耳瓶	(37)	(6.8)	(2.2)	灰・茶色粒	還元焼	黄灰	外面ロクロナデ後耳部整形、灰釉施す。 内面ロクロナデ後耳部整形、灰釉施す。	1/4残存。
3	覆土	磁器器 皿	(141)	(7.7)	29	白色灰物 粒、灰・茶 色粒	やや酸化焼	灰青 黄	外面ロクロナデ、底部回転糸切り後高台貼付け、高台部に 目有り、 内面ロクロナデ、体部一底部に重ね書き装束数珠著。	3/5残存。 芯み無し。
4	床面	磁器器 碗	144	7.1	53	白・灰色粒	還元焼	灰白 灰	外面ロクロナデ、底部回転糸切り後高台貼付け、 内面ロクロナデ。	2/3残存。 芯み有り。
5	覆土	磁器器 坏	(128)	6.5	40	白色灰物 粒	還元焼	黄灰	外面ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	1/2残存。

H-18

No	出土位置	種類、器種	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	灰釉陶器 小瓶	欠損	(7.0)	(7.4)	灰・黒色粒	還元焼	灰ナリ ツ	外面ロクロナデ後体部下部回転ヘラズリ調整、底部回 転糸切り。体部上段から中段に自然釉付着。 内面ロクロナデ、底部自然釉付着。	体部上段一底部分。
2	覆土	磁器器 碗	(152)	欠損	(3.7)	灰色粒、 輝石	還元焼	黄灰	外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。	口縁一底部下部分。
3	覆土	磁器器 皿	(121)	(7.1)	27	灰色粒	還元焼	灰青	外面ロクロナデ、底部回転糸切り後高台貼付け、 内面ロクロナデ。	1/5残存。

H-19

No	出土位置	種類、器種	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面	土師器 坏	(108)	丸底	33	白・灰・茶 色粒	良好	橙	外面(一部)ロクロナデ、体部との境に僅か凹線を有して、 以下ヘラズリ。 内面(一部)ロクロナデ、以下ヘラズリ及びビナデ。	1/4残存。
2	床面	磁器器 瓶	欠損	(140)	(3.0)	灰・黒色粒	堅焼	灰 灰ナリ ツ	外面ロクロナデ後胴部下部回転ヘラズリ調整、底部(回 転糸切り後)高台貼付け、自然釉付着、底部自然釉付着 による凸面有り。 内面ロクロナデ。	胴部下段一底部分。

H-20

No	出土位置	種類、器種	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	カマド 燃焼室	磁器器 碗	(145)	7.3	6.0	ナード、 灰色粒、 黄藍粒	やや酸化焼	にじみ 橙 黄	外面ロクロナデ、底部(回転糸切り後)高台貼付け後高 台穴ビナデ。 内面ロクロナデ。	3/5残存。
2	カマド 燃焼室	かわらけ	97	4.5	29	白・灰・茶 色粒	良好	橙	外面ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面ロクロナデ。	3/5残存。 芯み有り。
3	カマド 燃焼室	煎茶	(208)	欠損	(130)	ナード、 灰・黒色粒	酸化焼	橙 明黄	外面(一部)ロクロナデ、平口縁で胴部上段に内肌、胴部上 段(一部)ナデ穴ビナデ、胴部は上段が僅かに凹む。 及び胴部にカマド機軸土付着。 内面(一部)ロクロナデ、以下回転ナデ。	1(胴一)一部中位片、 胴部径(2.2)cm。

D-6

No	出土位置	種類、器種	口径	直径	高さ	胎土	焼成	色調	器形・成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	磁器器 坏	(143)	(7.0)	48	白・灰色粒、 輝石	還元焼	灰白	外面ロクロナデ、底部回転糸切り後胴部及びビナデ整 形。高台部貼付け後の欠損等により平部に整えられたか。 内面ロクロナデ。	1/3残存。
2	覆土	磁器器 坏	(140)	欠損	(3.7)	白・灰色粒	還元焼	黄灰	外面ロクロナデ。 内面ロクロナデ。	口縁一底部下部分。

D-16

No	出土位置	種別・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	覆土	灰忠器 埴	[13.5]	7.6	4.6	白・灰・黒色粒	還元焰	黄灰	外面口テラナナ。底部回転糸切り長高台貼付け。 内面口テラナナ。	2/5 残存。
2	覆土	灰忠器 埴	[13.2]	[5.7]	4.5	石葉粗粒、灰・黒色粒	中々還元焰	黒灰に深い赤黒	外面口テラナナ。底部回転糸切り。 内面口テラナナ。	1/3 残存。

D-17

No	出土位置	種別・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	覆土	灰忠器 埴	[14.9]	7.7	5.9	石葉、灰・黒色粒	還元焰	黒灰	外面口テラナナ。底部回転糸切り長高台貼付け。 内面口テラナナ。	2/3 残存。

D-18

No	出土位置	種別・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	覆土	土師器 埴	[11.2]	丸底	3.1	灰・茶色粒、輝石	良好	橙	外面口縁部ココナテ。体部との境に屈曲を持ち、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナテ。以下ヘラナナ及びユビナナ。	1/3 残存。 蓋み顕著。
2	覆土	土師器 埴	10.5	丸底	3.4	チャート、灰色粒、赤鉄質	良好	橙	外面口縁部ココナテ。体部との境に屈曲を持ち、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナテ。以下ヘラナナ及びユビナナ。	4/5 残存。
3	覆土	土師器 埴	[14.1]	丸底	(4.0)	チャート、赤鉄質、白灰色粒	良好	橙	外面口縁部ココナテ。体部との境に僅かな湾を持ち、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナテ。以下ヘラナナ。	口縁一体部片。
4	覆土	土師器 埴	[15.5]	丸底	(3.0)	石葉、チャート、灰色粒	良好	橙	外面口縁部ココナテ。体部との境に湾を持ち、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ココナテ。以下ヘラナナ。	口縁一体部片。

2区表探

No	出土位置	種別・器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	胎形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
1	表探	かわらけ	8.9	5.3	2.1	チャート、茶色粒	良好	浅黄	外面口テラナナ。底部回転糸切り。口縁部厚付き。 内面口テラナナ。	3/4 残存。
2	表探	かわらけ	7.7	4.5	2.1	チャート、灰・茶色粒	良好	浅黄 灰黄	外面口テラナナ。底部回転糸切り。 内面口テラナナ。	4/5 残存。
3	表探	かわらけ	(8.6)	4.1	2.2	灰・茶色粗粒、輝石	良好	に深い黄橙	外面口テラナナ。底部回転糸切り。 内面口テラナナ。	1/2 残存。
4	表探	土師器 埴	11.9	6.1	4.0	灰・茶色粒	良好	橙	外面口縁部ココナテ。体部（ヘラケズリ後）ユビナナ及びユビセキエ。底部多角形のヘラケズリ。 内面口縁部ココナテ。体部から底部ヘラナナ及びユビナナ。	3/4 残存。 蓋み有り。
No	出土位置	種別・器種	長さ	幅	厚さ	材質	焼成	色調	胎形、成・整形、文様等の特徴	保存状況・備考
5	表探	瓦 平瓦	[15.7]	(9.9)	2.1	石葉、赤鉄質、灰・茶色粒	還元焰	灰	四面布目。「大」文字並書き。上端部ヘラケズリ。 凸面ヘラケズリ後ヘラナナ。	土縁部片。

VI まとめ

落合地区の北西方向に位置する元総社蒼海地区において発掘調査成果を基に古代景観の検討を行った中村岳彦氏の論考(中村2018)を参考にして、今回の調査成果とこれまでの調査成果を基に落合地区の古墳時代・古代それぞれの景観について検討を行い、まとめとしたい。

1. 古墳時代の景観想定

この時期の畠跡は元総社寺田遺跡Ⅲ、落合遺跡群(1)・(2)・(5)1区で確認されている。5世紀末から6世紀初頭に榛名山噴火に起因する降灰した火山灰(Hr-FA)によって覆われており、この堆積層が確認できる範囲でのみ畠跡が検出されている。他の場所でも畠が広がっていた可能性があるが、後世の削平により消失したと考えられる。落合遺跡群(5)1区では大溝へ傾斜している東側斜面地で、落合遺跡群(1)では西側斜面地と平坦地で確認されており、大溝周辺で畠跡の検出が顕著である。落合遺跡群(5)畠跡東側の台地部ではHr-FAの堆積は確認できるものの、遺構が検出されない空間となっている。台地部東端では約20cm程面が下がり、ここから東側ではHr-FAに被覆された水田跡が確認されている。W-8は水田域の西端を南北に走向していることから水田への配水に関する溝であると考えられる。水田跡の東側には現在の牛池川が流れており、水田が牛池川沿いの低地にあたる場所に造られていたことがわかる。このような水田跡は牛池川上流の低湿地にあたる遺跡⁽¹⁾でも検出されている。台地上では畠を耕作し、牛池川沿いの狭小な低湿地では水田を営んでいた様子が窺える。

落合地区では今まで古墳時代の遺物出土や溝・畠跡の検出事例はあったものの堅穴建物跡は本遺跡の北西に位置する上野国府等範囲内確認調査46 トレンチと本遺跡1区北側の元総社寺田遺跡Ⅲ(4世紀代の建物跡)での確認だけであった。今回の調査では古墳時代後期の堅穴建物跡(2区H-14)が確認されたことから、落合地区にも該期の集落が広がっていた可能性が考えられるようになった。元総社蒼海地区では古墳時代後半において牛池川兩岸の微高地および染谷川左岸の自然堤防上に集落が集中している傾向が見られる(中村2018)。落合地区では牛池川に近接する場所や大溝周辺を生産域として利用し、それより西側にあたる台地中央部または染谷川左岸の自然堤防上に集落を営んでいたと推測される。

今回の調査で確認された1区の大溝は上幅約16m、深さ2.6m以上の南北に走向する大型の溝である。埋土の下層に極めて薄いHr-FAとHr-FPの堆積層が確認できることから、古墳時代以前から存在していた溝と考えられる。かつて牛池川と染谷川に挟まれた台地上には相馬ヶ原原状地を源とする中小河川が存在し、両河川の流が現在の位置に落ち着くと中小河川は埋没し、浅く緩やかな台地上の低地帯と化していったと考えられている(中村2018)。今回の調査で確認された大溝もこのような台地上に流れる中小河川であったと推測される。落合遺跡群(1)W-1が走行する場所も他地点と比較して一段低く、Hr-FAの堆積も認められることから、中小河川によって開析された低地であると想定される。大溝はその後、堆積土により徐々に埋没していき、8世紀代までには完全に埋没したと考えられる⁽²⁾。8世紀以降に開削された落合遺跡群(1)W-2~4や落合遺跡群(5)1区W-2・6等は走向軸も近似することから、大溝埋没後に下流域への給水するための代替の溝であったのではないだろうか。

2. 古代の景観想定

落合遺跡群のこれまでの調査で、8世紀:3件、9世紀:21件、10世紀:35件、11世紀:6件の堅穴建物跡が検出されている。古代の落合地区は8世紀から堅穴建物が出現して9・10世紀以降増加し、11世紀頃になるとやや減少する傾向がみられる。元総社蒼海地区の国府推定地周辺では8・9世紀代の住居跡の検出が極めて少ない傾向にある。これは国府造営に関連するものと一般的に言われており、それまで集落を営んできた人々が国府周辺から移動したことが想像される。国府域の外縁部にあたる落合地区はこういった人々

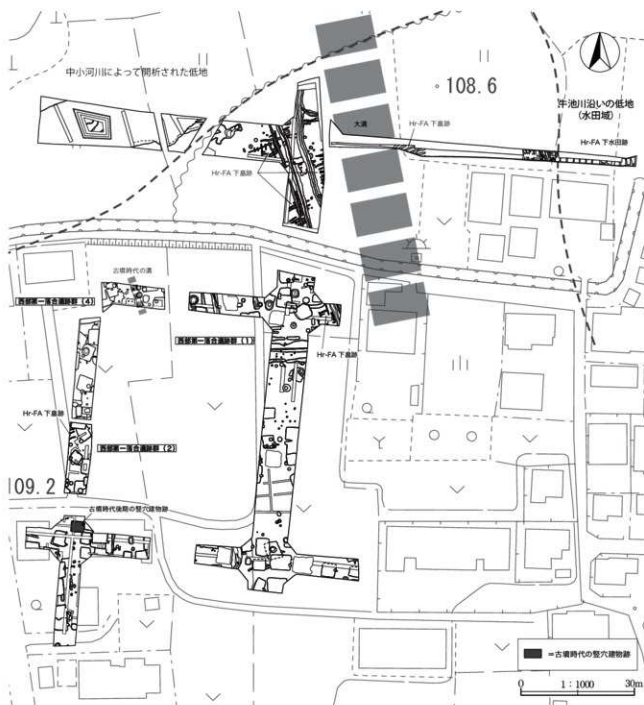


Fig.32 西部第一落合遺跡群(5)周辺の古墳時代の景観想定図

を受容し、集落域を拡大していったのではないだろうか。

落合遺跡群(5)1区では堅穴建物跡の検出が無く、落合遺跡群(1)北側調査区でも同様に集落の営みが見られない。本遺跡の北西側にあたり、落合遺跡群(1)W-1の流路に隣接する落合遺跡群(3)でも同様である。集落域がここまで広がらないのは落合遺跡群(1)W-1に近接していることが影響していると考えられる。

註釈

1. 元総社菅海遺跡群(19)、元総社菅海遺跡群(38)、総社開泉明神北遺跡、総社開泉明神北遺跡Ⅳ、総社開泉明神北遺跡Ⅴ、元総社牛池川遺跡、元総社寺田遺跡、元総社寺田遺跡3などが挙げられる。
2. 大溝の上側(第1面)にあるW-2は落合遺跡群(1)W-2の延伸部分と考えられ、出土遺物から8・9世紀の年代が想定されている。

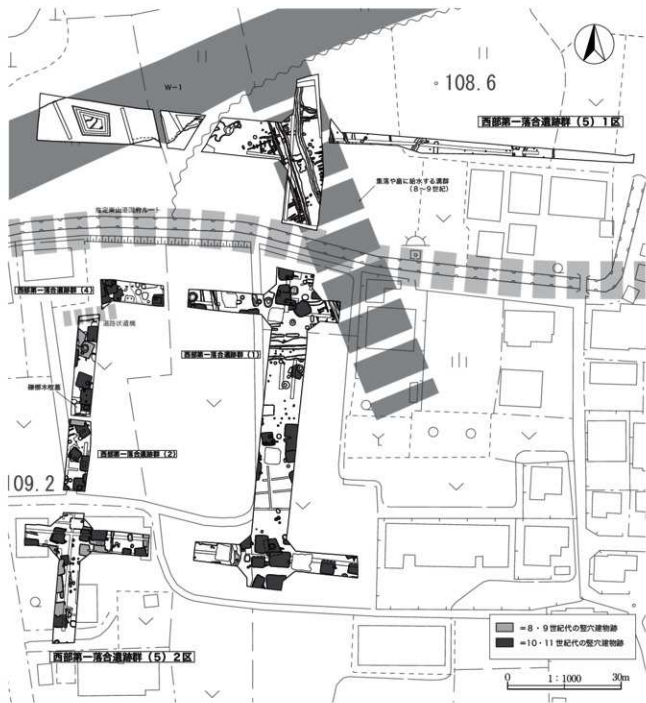


Fig.33 西部第一落合遺跡群 (5) 周辺の古代の景観想定図

参考文献

論文等

中村尚彦 2018 「推定上野国府」周辺の古代景観『群馬文化』第332号 群馬県地域文化研究協議会

市町村史

前橋市史編さん委員会 1971 『前橋市史』第1巻

群馬県史編さん委員会 1989 『群馬県史』通史編3 中世

写 真 图 版



1区第1面全景 (上が北)



1区第1面調査区全景 (北東から)



1区第1面調査区全景 (西から)



1区W-1全景 (南から)



1区W-2・6全景 (北から)



1区第2面東側全景 (西から)



1区Hr-FA下水田全景 (東から)



1区Hr-FA下水田全景 (西から)



1区Hr-FA下水田全景 (北西から)



1区Hr-FA下高跡全景 (北から)



1区W-8全景 (北西から)



1区大溝全景（西から）



1区大溝全景（東から）



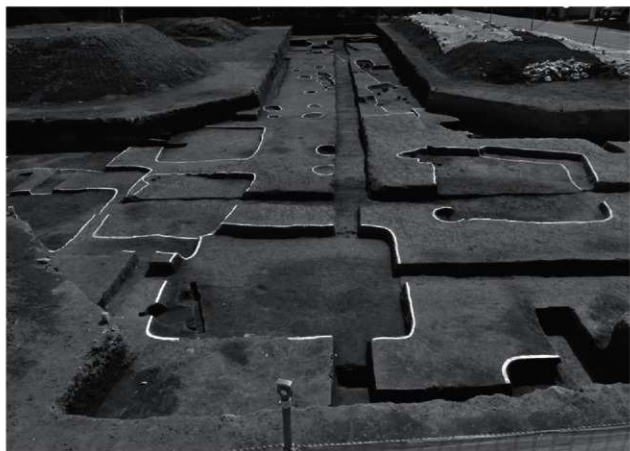
1区大溝全景（北西から）



2区全景（南から）



2区全景（西から）



2区全景（北から）



2区全景 (東から)



2区H-1全景 (西から)



2区H-1カマド全景 (西から)



2区H-2全景 (西から)



2区H-2カマド全景 (西から)



2区H-3全景 (西から)



2区H-3カマド全景 (西から)



2区H-4全景 (西から)



2区H-4カマド全景 (西から)



2区H-5全景 (西から)



2区H-5カマド全景 (西から)



2区H-6全景 (北から)



2区H-6カマド全景 (北から)



2区H-7全景 (北西から)



2区H-8全景 (西から)



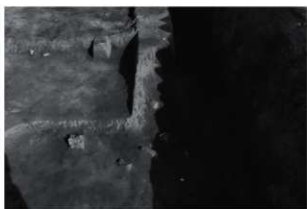
2区H-8カマド1全景 (西から)



2区H-8カマド2全景 (西から)



2区H-9・11全景 (西から)



2区H-9カマド全景 (西から)



2区H-10全景 (西から)



2区H-12全景 (西から)



2区H-13全景 (東から)



2区H-13カマド全景 (西から)



2区H-14全景 (西から)



2区H-14カマド全景 (西から)



2区H-15全景 (西から)



2区H-15カマド全景 (西から)



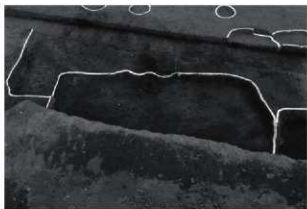
2区H-16全景 (東から)



2区H-17全景 (東から)



2区H-18全景 (南西から)



2区H-19全景 (西から)



2区H-19カマド全景 (西から)



2区H-20全景 (北西から)



2区H-20カマド全景 (西から)



2区H-21全景 (西から)



2区H-21カマド全景 (西から)



2区1号集石全景 (北から)

1区



W-1-1



W-8-1



W-8-2



D-3-1



表探-1



表探-2



表探-3

2区



H-1-1



H-1-2



H-1-3



H-2-1



H-2-3 (1/4)



H-2-4 (1/4)



H-2-2



H-4-1 (1/4)



H-3-1



H-3-2 (1/4)



H-3-3 (1/4)



H-4-1 (1/2)



H-5-1



H-5-2



H-5-3



H-5-4



H-5-5



H-5-6



H-6-2



H-6-1



H-6-3



H-7-1



H-8-2



H-8-3



H-8-1



H-8-4



H-8-5



H-8-6



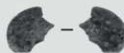
H-8-7 (1/4)



H-8-8 (1/4)



H-9-1



H-9-2 (1/2)



H - 12 - 1



H - 12 - 3



H - 12 - 4



H - 12 - 5



H - 12 - 2



H - 12 - 6



H - 13 - 4



H - 13 - 1



H - 13 - 2



H - 13 - 5



H - 13 - 3



H - 13 - 6 (1/2)



H - 14 - 2 (1/4)



H - 14 - 3 (1/4)



H - 14 - 1



H - 15 - 1



H - 15 - 2



H - 15 - 3



H - 17 - 1



H - 17 - 2



H - 17 - 3



H - 17 - 4



H - 17 - 5



H - 18 - 1



H - 18 - 3



H - 20 - 1



H - 20 - 2



H - 19 - 1



H - 19 - 2



H - 20 - 3 (1/4)



D - 6 - 1



D - 6 - 2



D - 16 - 1



D - 16 - 2



D - 17 - 1



D - 18 - 1



D - 18 - 2



D - 18 - 3



D - 18 - 4



表探 - 1



表探 - 2



表探 - 3



表探 - 4



表探 - 5 (1/4)

報告書抄録

カタカナ	セイヤダイチオチアイセキダン (5)
書名	西部第一落合遺跡群 (5)
副書名	前橋都市計画事業西部第一落合土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	佐野良平
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市国領町 2-21-12
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0853 群馬県前橋市総社町 3-11-4
発行年月日	2023年11月24日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
西部第一落合遺跡群 (5)	群馬県前橋市元総社町 748-1, 748-3, 748-4, 748-5, 2510-2, 2516-1, 2519-1, 2520, 2697-11 の各一部	102016	4 A277	36°22' 55"	139°02' 16"	20230220 / 20230508	694㎡	前橋都市計画事業 西部第一落合 土地区画整理事業

所収遺跡名	調査区	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
西部第一落合遺跡群 (5)	1区	生産	古墳時代	Hr-FA 下水田 Hr-FA 下畠跡 大溝	土師器	・ 5世紀末から6世紀初頭の 榛名山噴火に起因する火山灰 に覆われた水田と畠跡
			平安時代	溝・土坑・ピット	須恵器 土師器	
	2区	集落	古墳時代 奈良・平安時代	堅穴建物跡 集石遺構 井戸・溝 土坑・ピット	灰釉陶器 緑釉陶器 須恵器 土師器 銅製丸物	・ 6世紀後半から11世紀代に かけての集落遺跡

西部第一落合遺跡群 (5)

群馬県前橋市国領町第一落合土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2023年11月10日 印刷

2023年11月24日 発行

発行 前橋市教育委員会事務局文化財保護課

〒371-0853 群馬県前橋市総社町 3-11-4

編集 TEL. 027-290-6511

技研コンサル株式会社

印刷 朝日印刷工業株式会社